

# 学内広報

for communication across the UT



特集：—再建80周年記念—

総合図書館大解剖！

2009.1.26

No. 1382



# 特集 —再建80周年記念—総合図書館大解剖！

教職員の皆様、あけましておめでとうございます！今年も学内広報をよろしく願いたします。恒例の正月お楽しみ特集は、再建80周年にちなんだ『総合図書館大解剖！』。いくなれば、総合図書館を楽しむための保存版・探訪ガイド(すごろく風)でございます。どうぞ、お楽しみくださいませ。

## 総合図書館データ

蔵書数

1,196,209冊

1日の平均入館者数(平日)

2,904名

年間貸出冊数(開架)

119,953冊

1日の平均貸出冊数(開架)

351冊

「蔵書数」は平成19年度末のデータ、その他は平成19年度のデータです



再建80周年記念プレート  
(総合図書館玄関脇にあります)

## 再建80周年は創立131周年でもあります！

東京大学図書館は1877(明治10)年の東京大学創設時に設置されました。旧図書館は現在の総合図書館とほぼ同じ位置に赤レンガ造りで建設されたとのこと。その後、関東大震災による全焼と再建(下記参照)、1964(昭和39)年と1987(昭和62)年の大改修を経て現在に至っています。扱う媒体も紙の書籍や雑誌のみならず、

時代に合わせて変遷してきました。1980年代後半からは、電算化、オンライン化、データベース化が進み、現在では近代的な情報センターとしても機能しています。131年もの間、総合図書館は本学の「知のセンター」としての役目を務めてきたのです。(関連記事がP20、21にあります。)

## 関東大震災による全焼とその再建

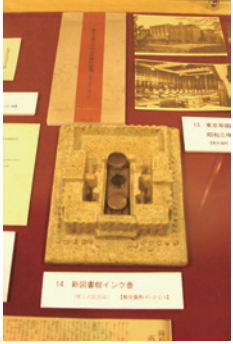
1923(大正12)年9月1日、関東大震災が発生。学内から出火した火事により、70万冊以上に及ぶ蔵書は瞬時に灰燼に帰したそうです。震災後の図書館再建は、米国のJ・D・ロックフェラーJr.氏からの400万円の寄附(現在の100億円相当)により行われました。震災で焼失した建物の再建整備を大学から依頼された工学部教授・内田祥三は、ゴシック調の美しい新図書館を建設。1928(昭和3)年に竣工した新図書館は、80年を

経た現在も東大の総合図書館として風格を湛えています。現在、総合図書館3階フロアでは、常設展『内田祥三と図書館再建80周年』が展示されています。竣工記念品として作られたインク壺、寄附の御礼としてロックフェラー氏へ贈られた新図書館の模型、ロックフェラー氏からの手紙など、当時の貴重な文物が展示されていますので、総合図書館にお立ち寄りの際はぜひ、ご覧ください。

## 東京大学総合図書館 常設展『内田祥三と図書館再建80年』のご紹介



「東京大学総合図書館 常設展『内田祥三と図書館再建80年』」のタイトルボード



図書館の形をしたインク壺。新図書館竣工を記念して作られた



寄附の御礼にJ・D・ロックフェラーJr.氏に贈られた新図書館の模型



関東大震災により大きな被害を受けた旧図書館の残骸

# 総合図書館探訪ライブ(すごろく風)

総合図書館は見どころ満載！

さあ、一緒に図書館探訪に出かけましょう！

START!



総合図書館の前に到着！ この建物は前から見ると、「本が並んだ本棚」の形をしているのです。



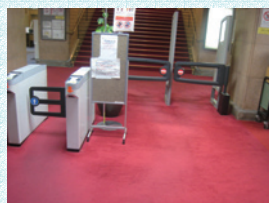
玄関に近づく、外壁に8枚のレリーフが。彫刻家・新海竹蔵が1930(昭和5)年に制作した作品(再興第17回院展出品)。



ゲートを抜けると、そこは大階段前であった。しかし、階段に進まず、まずは左方向へ。



学生証やIC職員証をタッチ。駅の改札みたい。



前方左側にある入館ゲートへ。



中に入って右側を見ると、受付。



それでは館内に踏み込みます。

1 F

## 洋雑誌閲覧室



①この部屋、新図書館が竣工した1928(昭和3)年当時は「記念室」と呼ばれていました。もちろん、関東大震災からの復興を「記念」して。その後、「自由閲覧室」に名前が変わり、現在は「洋雑誌閲覧室」となりました。天井が高く、シャンデリアを仕つらえた室内はとてもゴージャスな気分してくれます。



②南葵文庫の扁額

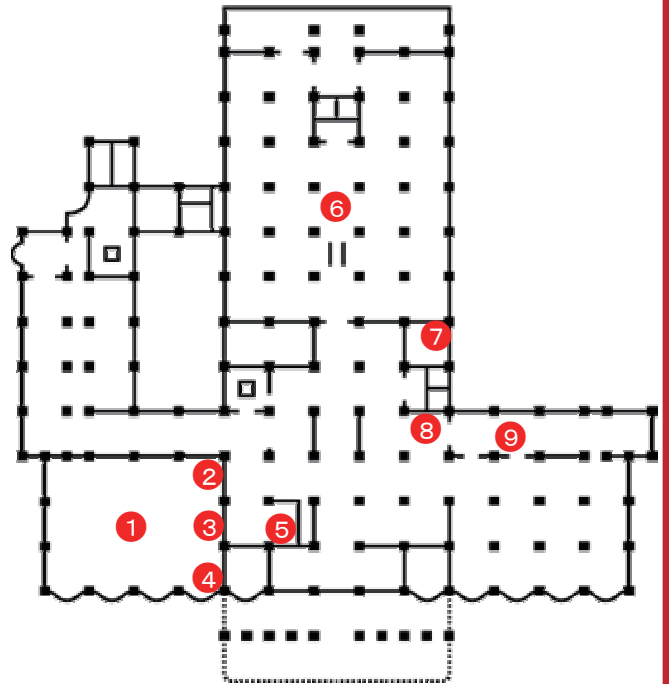
江戸幕府最後の将軍・徳川慶喜の筆によるものです。南葵文庫(なんきぶんこ)とは紀州徳川家の蔵書を基とした約10万冊の書籍群のこと。総合図書館で最大のコレクションです。関東大震災後に徳川頼倫侯爵から寄贈されました。「南の葵」、つまり「南(紀州)の徳川家」というわけですねー。

# 1 F(つづき)



### ③鹿の首

おお！びっくり！ 多少、唐突感は否めませんが、英国王ジョージ5世より本学に寄贈された由緒正しきもの。



### ④タゴールの肖像画

インドの詩人にしてノーベル文学賞受賞者・タゴールの肖像画。インドのネール首相来日の際、本学に寄贈されました。



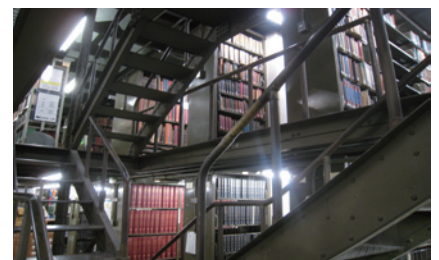
### ⑤ロゼッタストーンのリプリカ

この石版は、なに？ あの有名なロゼッタストーンです(レプリカですが)。本モノは大英博物館にあります。その複製を依頼して取り寄せたものだそうです。



### ⑥書庫に潜入！

総合図書館の心臓部、書庫です。ずらりと書籍が並んでいます。見出しには「潜入！」と書きましたが、学部後期課程学生、大学院生、教職員などの方なら、わざわざ潜入しなくても入れます。ここでおもしろいのは階段と床。階段は潜水艦の階段を持ってきて取り付けましたそうです(狭いスペースに設置できますからね)。床は、なんと、ガラス製なのです。



### ⑦青洲文庫の扁額

貴重書閲覧室にあります。青洲文庫は甲州の素封家・渡辺家が収集・所有していた約10万巻の書籍群。そのうち約3万冊を総合図書館が震災後に購入しました。購入の際に渡辺家から譲られたこの扁額は伊藤博文の筆によるもの。なぜ、伊藤博文が？ 渡辺家当主の渡辺青洲と賭け将棋をして負けたからだと伝えられています。



## Column

なんと！ 屋上に三角点が！



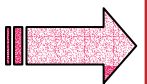
意外に知られていませんが、総合図書館の屋上には三角点があります。三角点とは、三角測量をして地図を作るための基準点。平地や山の頂上にあることが多いのですが、なぜか、こんなところで……。また、三角点は金属票で示されていることが多いのですが、総合図書館屋上の三角点は花崗岩製の標石で示されています。



### ⑧OPACコーナー コンピュータで図書検索 ができます。



### ⑨メディアプラザ I コンピュータ端末を自由に使えます。「I」と付いているからには当然、「II」もあるだろうと思いきや、実は「III」まであるのです(IIは2階に、IIIは3階にあります)。





大階段を登りきって後ろを振り向くと、こんなかんじ。美しい！



3階フロアはとても美しいです！見よ、この見事な柱！



⑩グヒエーシヴァリー寺院の模型

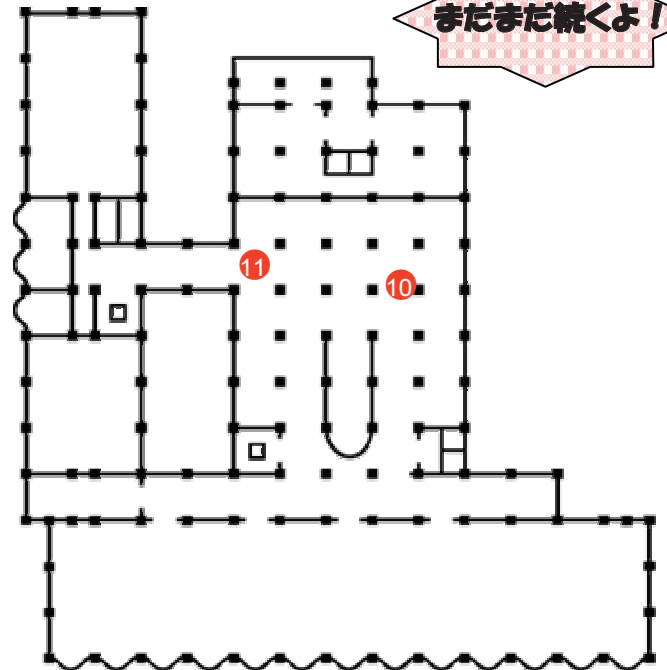
ネパールにある寺院の模型。かつて、ネパールの王子が本学に留学された際に贈られたもの。

図書館の形のインク壺  
図書館の模型  
震災の残骸  
【以上、2ページ参照】



⑪小泉八雲のレリーフ  
(1935年、ギリシャの  
日希協会より寄贈)

まだまだ続くよ！



大階段を上る途中で後ろを振り向くと、2階閲覧室が。

どこかにあります！ アンモナイト



大階段のあたりにはイタリア製の大大理石がふんだんに使われており、あちこちにアンモナイトの化石を見つけることができます。さて、貴方はいくつ見つけれられるでしょう。

大階段で  
3階へ

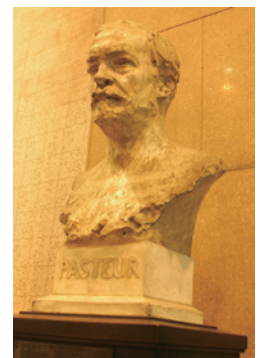
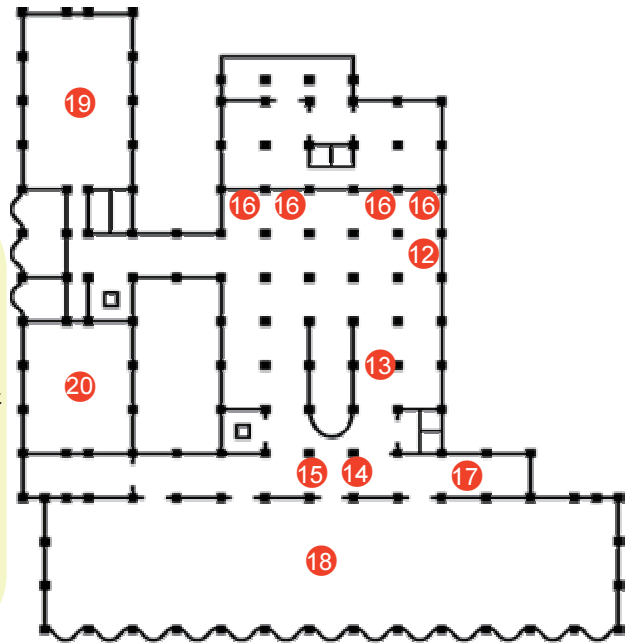
# 3 F(つづき)

## ⑫図書館再建を詩に詠んだブランデン先生



**Building the Library, Tokyo University  
Night Scene**  
Like men of fire, in painful night,  
The Eastern builders thud  
Their iron round; wild bubbles of light  
From Babel's angles scud.  
The hammer's fierce brain-battering shout  
In bursts of power rebels,  
Puts unheard melodies to rout,  
Drowns heaven's songs and bells.  
And yet it serves their quiet will,  
And builds them one more home  
Where nooks shall be most kind and still  
For the great Muse to come!  
(Edmund Blunden)

1924(大正13)年から1927(昭和2)年まで本学の英文学教授を務めたエドモンド・ブランデン先生のレリーフ。この先生、なんと、震災後に図書館が再建される工事現場を見て、その光景を詩にしているのです！ 右の英語詩がそれ。当時、工事現場では「鉄骨をつなぐリベットを地上で焼き、下から鉄で放り上げて、上にいるヒトが鉄でキャッチする」という職人技が繰り返されていました。これを見たブランデン先生は、いたく感激。夜間工事中に真っ赤に燃えたリベットが夜空を舞う様子を詩に詠ったというわけ。驚きますよねー！



⑭ヴィクトル・ユゴーの胸像  
(1933年、パリ大学より寄贈)

⑮パスツールの胸像  
(1933年、パリ大学より寄贈)



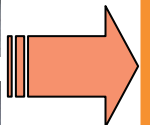
## ⑬ショパンの手

これ、なんだか分かります？ そう！ 石膏製の「ショパンの手」なのです。ワルシャワのショパン記念館に保管されている「ショパンの左手の石膏型」の複製だとのこと。壊れやすい石膏製なので、輸送中に2度も破損し、3度目に無事到着したそうです。大変だったんです。



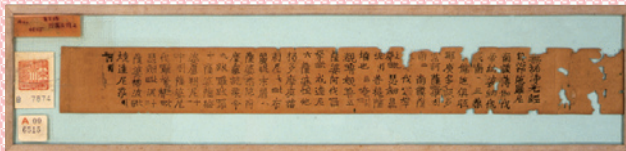
## ⑯メダリオン

玄関の外壁にあったレリーフと同じく、彫刻家・新海竹蔵製作のレリーフ。春夏秋冬をあらわしています(再興第16回院展出品)。



## Column

### 世界最古級の印刷物 『無垢浄光大陀羅尼經』



総合図書館の蔵書の中で、一番古いものは『無垢浄光大陀羅尼經』という資料です。通称『百万塔陀羅尼』と言われるもので、770年に作られたお経なのですが、これは世界最古級の印刷物なのだそうです。もちろん貴重書に指定されています。うーむ！ 総合図書館、ディープです！

## 3階閲覧室



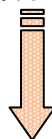
⑩総合図書館未経験者の方は、この部屋に一步足を踏み入ると、びっくりするはず。ハリー・ポッターの世界に迷い込んだ気分になるからです。美しく静謐で気品ある閲覧室。素人カメラマンの学内広報編集スタッフが撮影した写真ですが、なぜか、とてもカッコ良く写っていますね。それだけ、絵になるスペースなのです。こんなところで本を読めるだけで幸せではありませんか！



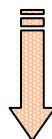
## 衛星放送コーナー



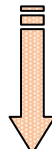
⑪主として留学生や外国人研究者の利用を想定した「衛星放送コーナー」。BBC、CNN、中国の放送を見ることができます。ヘッドフォンで音声を聞きながら楽しめます。ここには中村琢二の手による油絵『女集まる』が飾られています(昭和16年文展特選)。



⑫国際資料室  
国際連合の寄託図書館で、EU、OECDなどの資料もあります。



⑬マイクロ資料室  
日本占領関係資料、本学所蔵の貴重書の複製など、約2万リールのマイクロフィルム、約60万枚のマイクロフィッシュを所蔵しています。



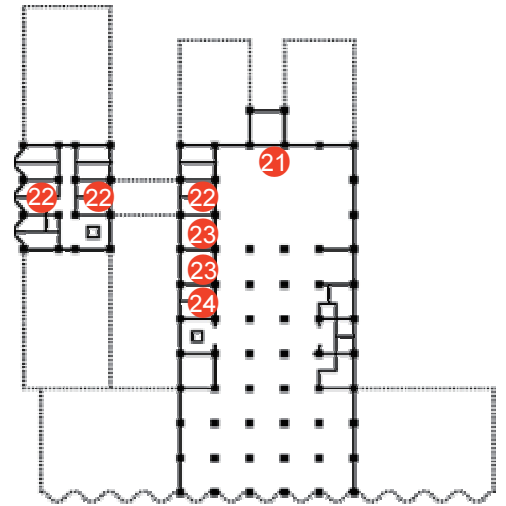
エレベーターで  
4階へ



②①レリーフ『緊張の後で』(荷雅彦作、1987年寄贈)



②③ 演習室  
学生・教員がグループで借りて使用できる部屋。定員は3~8人。



②② 閲覧個室  
教員が研究に使える個室。14室あって3ヶ月まで借りられます。写真のような形で並んでいます。



②④ 対面朗読室  
ボランティアの方が視覚障害のある方に本を読み聞かせるための部屋。点字の本も備えてあります。

エレベーターで  
1階へ

GOAL !



再びゲートに戻ってきました。さあ、退館。



ゲートには「ブザーが鳴ったら止まってください」と書いてあります。なんとなくビクビクしながら通るかんじ。(別に悪いことはしてないですけどね)



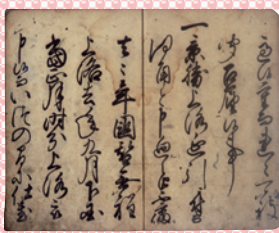
無事退場し、扉から出てきたところ。(振り返ってみた光景)



うーん、楽しかった！ もう一度、外観を見るために振り返ると、ちょうど、図書館の前の噴水が勢いよく水を噴き上げ始めました。ラストシーンにふさわしい光景です！

Column

大河ドラマの主人公が書いた手紙『直江状』



2009年のNHK大河ドラマは『天地人』という作品ですが、その主人公、直江兼続が実際に書いたとされる手紙を、承応3(1654)年に出版したものです。関が原合戦前夜の徳川側との緊迫したやりとりが書かれています。もちろん、総合図書館の貴重書に指定されています。



## 過去の常設展示

電子展示をWEBで見ることができます。 <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/tenjikai/josetsu/>

所蔵資料でたどる 点描 源氏物語の一千年 (2008年6月27日～10月22日)	東京大学創立130周年記念事業「知のプロムナード」関連展示 鷗外と地図 ー東京大学総合図書館所蔵鷗外文庫よりー (2007年12月21日～2008年4月23日)
犬 (2006年2月～3月)	よみがえる幕末明治の人々(2005年7月～10月)
東大初期洋書教科書の世界 (2005年4月～6月)	モース文庫(2005年1月～2月)
東京大学の歴史とキャンパス (2004年7月～10月)	鶯軒文庫(2004年3月～7月)
亀井文庫 (2003年12月～2004年2月)	総合図書館の文物(2003年7月～10月)
博覧会関係資料 (2003年4月～6月)	

## 過去の特別展示会

電子展示をWEBで見ることができます。 <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/tenjikai/index.html>

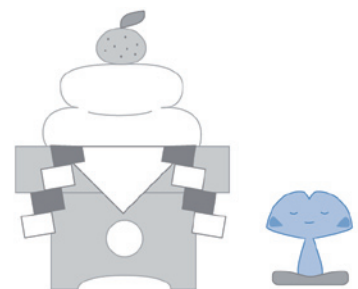
2008年特別展示会:かわら版・鯀絵にみる江戸明治の災害情報ー石本コレクションから	2007年特別展示会:東京大学創立130周年・総合図書館 再建80周年記念特別展示会ー世界から贈られた図書を受け継いでー
2006年特別展示会:知の職人たちー南葵文庫に見る江戸のモノづくり	2005年特別展示会:東大黎明期の学生たち
2004年特別展示会: 土肥慶蔵の医学関係資料とその時代	2003年特別展示会:博覧会から見えるもの
2002年特別展示会:江戸期の俳書展	2001年特別展示会:東京大学所蔵仏教関係貴重書展
1998年特別展示会:総合図書館所蔵「近世文学資料展」	1997年特別展示会:お雇い外国人展
1996年特別展示会:地図に見る江戸八百八町	東京大学コレクション「幕末・明治の人物群像」展(1996年)
1995年特別展示会:東京大学総合図書館の漢籍とその旧蔵者たち	1994年特別展示会:博物館・博覧会と好奇心

## WEBで読める図書館コレクション

現在、コレクションの電子化を進めており、WEBで読めるコレクションがあります。  
以下がその代表的なものです。ぜひ、ご利用ください。

**霞亭文庫** 渡辺霞亭が収集した、江戸時代の小説コレクションです。

**鷗外文庫(一部)** 森鷗外の旧蔵書のうち、鷗外自筆の写本や書き入れ本を電子化しました。  
WEBで鷗外の直筆書き込みを見ることができるのです！



いかがでしたか？ 総合図書館大解剖。あまり、図書館を訪れたことのない方も、ぜひ、一度、足を踏み入れてみてはいかがでしょうか？ これからも学内広報では年頭にお楽しみ特集を組んでいく予定です。今後ともよろしく願いいたします。

制作:本部広報グループ

制作協力:附属図書館

# NEWS

## 一般ニュース

### 本部人材育成グループ

### 東京大学教職員永年勤続者表彰式行われる

一般

平成20年度の東京大学教職員永年勤続者表彰式が、11月19日（水）10時から、本部棟12階大会議室において、小宮山宏総長、辰野裕一理事、関係部局長及び関係事務（部）長等の列席のもと行われた。

表彰式では、被表彰者60名を代表して、医科学研究所附属病院看護部副看護部長 佐藤喜佐子さんに表彰状の授与並びに記念品が贈呈された。総長から挨拶の後、被表彰者を代表して、本部統括長（国際系）貴志辰夫さんより謝辞が述べられた。



小宮山総長から表彰状と記念品を受ける佐藤喜佐子さん



小宮山総長に謝辞を述べる貴志辰夫さん

なお、本年度表彰された方々は次のとおりである。

教育・学生支援系	吉井幸一	安藤昭浩	中丸典子	渡邊雅弘	松井潤一	貴志辰夫	野口陽生	大久保伸一	大南英樹	田畑磨徳	高野和浩	眞鍋勝之	遠藤一良	佐野一豊	江川美由紀	森田俊夫	森田久美子	早川明子	奈良篤史	前田利津子	佐藤澄子	瀬古洋子	工藤節子	鈴木清子	麻生妙子	斎藤三喜子	本多克子	水野真理子	立川友子	越山智子	村山啓子	澤幡浩之	間瀬幸雄	原慎一	森本千草	岡田仁美				
研究推進系																																								
国際系																																								
情報系																																								
経営・企画系																																								
人事・労務系																																								
財務系																																								
調達・経理系																																								
施設・資産系																																								
情報基盤センター																																								
大学院医学系研究科・医学部																																								
医学部附属病院																																								
大学院工学系研究科・工学部																																								
大学院理学系研究科・理学部																																								

大学院農学生命科学研究科・農学部	吉田厚志
	木下みゆき
	木村徳志
	栗田直明
大学院経済学研究科・経済学部	屋代究
大学院総合文化研究科・教養学部	山岸正
	越智將
	池田賢司
大学院教育学研究科・教育学部	野口達也
	戸部美香
大学院情報学環・学際情報学府	増田佳代子
医学研究所	藤崎聖一
	柴田浩子
	在家裕司
	佐藤喜佐子
生産技術研究所	高橋浩幸
	宮澤光明
	増田範通
	嶋崎守
先端科学技術研究センター	浅川昭彦
柏地区事務部	佐々木淳次
	三澤純子
	水野裕子
	以上 60 名



相澤議員による挨拶

今年度フォーラムのテーマとした、“地球温暖化”、“気候変動”、“IPCC（気候変動に関する政府間パネル）第4次レポート”などの話題を中心に、小池琉球大学監事による特別講演に続き、田中文部科学省大臣官房審議官・海洋地球観測探査システム推進本部長から趣旨説明、また、研究開発実施主体からは、堀川 JAXA 理事から「衛星観測監視技術」、今脇 JAMSTEC 執行役から「次世代海洋探査技術等」、小池 EDITORIA 機構長から「データ統合・解析システム」の概要説明が行われた。また、利用者からの期待として、藤谷氏（地球温暖化観測推進事務局）、大谷氏（農林水産省）、尾澤氏（国土交通省）、渡邊氏（水産総合研究センター）から講演があった。

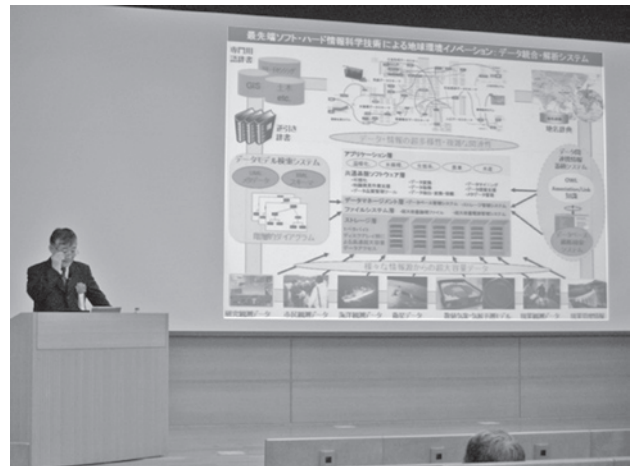
地球観測データ統合連携研究機構 (EDITORIA)



第3回国家基幹技術「海洋地球観測探査システム」フォーラム開催

11月28日（金）13時から17時に、本学鉄門記念講堂にて、文部科学省、宇宙航空研究開発機構（JAXA）、海洋研究開発機構（JAMSTEC）および本学（EDITORIA）が主催し、科学ジャーナリストの瀧澤氏による司会で第3回国家基幹技術「海洋地球観測探査システム」フォーラムが開催された。

フォーラム冒頭では、相澤内閣府総合科学技術会議有識者議員より、「『国家基幹技術』は、第3期の科学技術基本計画に則り、日本の科学技術の大きな柱として、大規模で長期間、集中的に投資をするべき技術のことを指している。『海洋地球観測探査システム』は5つの国家基幹技術の1つとして平成18年度に発足した。地球環境問題を中心に、国・海・宇宙を越えて取り組むプロジェクトとして、グローバルな課題をどう解決していくかが主要なテーマとなる。この『海洋地球観測探査システム』の大きな柱が、『データ統合・解析システム』による統合データベースで、課題解決のための取り組みを様々な角度から活発に議論して、さらなる発展につながるように期待する」との来賓のご挨拶をいただいた。



小池機構長による概要説明

フォーラム後半では安岡国立環境研究所理事がモデレーターとなり、講演者9名によるパネルディスカッションが行われた。地球環境の問題点として取り上げられている IPCC 予測、その適用と緩和策、対策及び施策に対する本システムの可能性に関して、「問題空間と科学技術の空間をどのように埋めるか?」、「利用に向けての道筋はどうか?」の視点から、パネリストが答える形で議論が進んだ。



パネルディスカッションの様子

フォーラム終盤には、小池機構長が本取り組みの対象とするグローバルな問題解決に向けて、

- ①利用者側と研究者側の協働による問題解決を実現する情報基盤を確立すること
- ②問題解決に必要な精度を有するデータや情報を創出するとともに、異なる分野間での相互利用を容易にするインターフェースを開発し、その活用を促進すること
- ③先端的な科学技術の適用の成功例を示し、国際社会をリードすること
- ④分野横断的な統合知によって地球環境問題を解決に導く講義や教科書作成を行い、若い人材を育成すること

の4つの重要性を挙げ、フォーラムを締めくくられた。

■詳細・問合せはこちら <http://www.diasjp.org>

海洋アライアンス

第2回イブニングセミナー開催

一般

12月4日(木)、本郷キャンパス工学部3号館において、海洋アライアンス・第2回イブニングセミナーが開催された。今回は法学政治学研究科・中谷和弘教授、海洋研究所・窪川かおる教授による、以下の講演があった。

- ・「エネルギー安全保障と海洋法」 中谷和弘教授
- ・「ナメクジウオと進化」 窪川かおる教授

中谷教授は、国際法の立場から海の役割とその現状・問題点などを説明した。まず、海の定義が確立されていないことについて、カスピ海を例にとり、問題提起をした。次いで、イランとオマーンに接するホルムズ海峡を例にとり、石油・ガス輸送ルートとしての海の役割及び課題を解説した。同海峡は中東の石油を運搬する重要ルートであり、一般に国際海峡としてとらえられているが、両沿岸国は領海であると主張している。また、マラッ

カ海峡およびソマリアを例にとり、海賊問題にも触れ、途上国の一部には十分な海賊をとりしめる能力がない一方で、日本には海賊をとりしめる根拠規定がないことを指摘した。

さらに海洋資源開発の問題にも触れ、境界未確定海域での一方的な資源開発が、国際法上直ちに禁止されるわけではないが、自己リスクに基づく行動であると指摘した。現行の鉱業法のままだと、海底鉱物資源の鉱区申請は先願主義となるが、今後は資源を「国富」だと認識した上でルールを作成することが重要であると強調した。

続いて窪川教授は、海洋生物ナメクジウオの生態や特徴などを解説した。ナメクジウオの持つ脊索が脊椎動物の発生初期で見られることなどから、ナメクジウオと脊椎動物は共通の祖先をもち、ナメクジウオを知ることは脊椎動物を知ることにつながることを示した。また腐敗した鯨骨と直下の砂地に生息するゲイコツナメクジウオの不思議な生態を解説し、ナメクジウオ研究の奥深さを語った。

また窪川教授は出張授業、白鳳丸見学会、教科書制作など女子中高生理系進路選択支援事業の活動も紹介した。これらの活動は、海洋科学という学問分野の普及だけでなく、女性が理科系に進む上でも、大変意義深いものである。ちなみに東大は産休・育休時でも、家にいながら仕事ができる環境を整えようとしている。窪川教授はそれをアピールすることも重要であると強調した。

当日は各部局から多くの教授、学生が集まり、講演に耳を傾けた。講演後のディスカッションでは活発に意見が交わされており、問題解決型の海のシンクタンクを目指す海洋アライアンスにとって、大変意義深いものとなった。次回も多くの参加を期待したい。

第3回イブニングセミナーは、法学政治学研究科・交告尚史教授と海洋研究所・青山潤特任准教授を講師に迎え、2月26日(木)18時から、工学部3号館306会議室にて開催されます。多くのご参加をお待ちしています。

海洋アライアンスホームページ：

<http://www.oa.u-tokyo.ac.jp>



セミナー風景

本部学生支援グループ

第55回総長杯争奪水上運動会が開催される



一般

恒例の運動会行事「総長杯争奪水上運動会」が、12月6日（土）に埼玉県戸田オリンピックボートコースで開催された。本大会は本学関係者によるボートレース大会で、競技経験に関わりなく楽しめる総長杯のスポーツイベントとして、またボートレースを体験する数少ない機会として例年好評を博している。今年度は学生や教職員ら総勢152名が参加し、天候にも恵まれ盛会となった。

メインレースは「ナックルフォア」と呼ばれる4人漕ぎの艇を用い、250mレース2回の合計タイムを競うものである。艇に乗る「クルー」は、参加者が4人1チームで漕ぎ手となり、各チームに漕艇部員がコックス（舵取り）として加わり、大会を通じて丁寧に指導することになっている。競技に使用するボートは公園ボートと違い、脚を主体に体全体を使って漕ぐもので、多くの参加者にとっては経験のない動きではあったが、どの艇もすぐに上達し、4人が一丸となった迫力あるレース展開を見せた。

メインレース【レガッタの部】のほか、陸上では【エルゴメーター】というボートのトレーニングマシンを用いたチームリレーが行われ、会場は始終歓声が絶えなかった。昼食時に振舞われた豚汁も好評で、またレース後には会場の東京大学戸田橋艇庫にて懇親会が開かれ、普段はあまり関わらない学生や教職員同士が親睦を深めることができた。

本大会の結果は以下の通りである。



エルゴメーターで進行距離を測定



レースの様子

【レガッタの部】 < 東京大学総長杯 >

順位	チーム名	合計タイム	修正	修正後タイム
1	はっぴいー Birthday!! ベッキーよりマッキー♡	2分 20.47 秒	12 秒	2分 32.47 秒
2	混成チーム 3	2分 38.52 秒	6 秒	2分 44.52 秒
3	レイトン教授と不思議な仲間	2分 52.66 秒	- 3 秒	2分 49.66 秒
4	エイティーンズ	2分 54.36 秒	0 秒	2分 54.36 秒
5	きらめ久世、あかもんきーず	2分 48.62 秒	6 秒	2分 54.62 秒

※ 250 mのタイムトライアル2回の合計

※ 順位決定の際、経験者は一人につき+6秒、

女性や50歳以上は一人につき-3秒で計算されます

【エルゴリレーの部】

順位	チーム名	タイム
1	混成チーム 2	2分 39.4 秒
2	はっぴいー Birthday!! ベッキーよりマッキー♡	2分 40.0 秒
3	ラブリー ミホちゃん♡	2分 45.0 秒
4	混成チーム 3	2分 46.0 秒
5	富士急プロデュース黒松	2分 48.0 秒

※ 4人チームで男子200m、女子150mのチームリレー

【エルゴ30秒漕の部】

順位	名前	距離
1	榊 龍之介	169m
1	永田 智也	168m
3	畑 中 太	165m
4	影澤 博明	163m
5	富樫 直之	162m

※ 30秒間の進行距離を競います（自由参加）

## 学生相談ネットワーク本部



一般

### 三浦雄一郎氏講演会

～75歳、エベレスト登頂への挑戦～  
の開催

12月8日(月)、学生相談ネットワーク本部主催の「三浦雄一郎氏講演会」が安田講堂にて開催され、800人を超える来場者があった。学生相談ネットワーク本部では、2008年10月から全学自由研究ゼミナールとして、教養前期課程学生を対象に「人間力の実践知一心の体力をいかに育むか」を開講しており、その開講記念として企画した。本講演会は本学学生、教職員のみならず一般にまで対象を広げ、当日は家族で足を運ぶ姿が多数見受けられた。

小宮山宏総長による開会の挨拶に引き続き、三浦雄一郎氏が75歳でエベレスト登頂に成功した際の「涙が出るほど、辛くて、厳しくて、嬉しい」瞬間までを追ったDVDを上映、その後、三浦氏の講演、三浦氏と亀口憲治特任教授(学生相談ネットワーク本部)との対談が行われ、会場からも多数の質問があった。「人生、ゆめ・目標を持つことが最高の生きがいではないでしょうか」と夢を追い続けている三浦氏の生き方に感動したひと時を共有することができた。



三浦氏講演風景



質疑応答風景



三浦氏と亀口特任教授との対談

## 本部業務改善グループ



一般

### 2008年度業務改善総長賞表彰式

12月19日(金)、安田講堂において、2008年度業務改善総長賞表彰式が業務改善プロジェクト推進本部の主催で開催された。

業務改善プロジェクト推進本部では、今年度も教職員提案課題(業務改善のアイデアを提案する)及び自律改善課題(職員が課題を設定し自ら改善に取り組む)の募集を行った結果、82件の応募があった。表彰式では、応募課題の中から厳正な審査の結果選出された総長賞(海外研修)1件、総長賞(国内研修)2件、業務改善プロジェクト推進本部長賞3件、特別賞3件に対し、小宮山宏総長及び辰野裕一理事からそれぞれ表彰状・副賞が授与された。

表彰式に引き続き、小宮山総長が「世界の東京大学を支える ～たてよこに動ける職員になろう～」と題して職員への講話を行った。グローバリゼーションが進む世界の中で、東大が「21世紀の『行動する大学』」を目指すために、職員は縦割り意識から脱却し「全部できる職員」を目指して欲しい、という期待が語られた。

また、受賞者による取り組み課題プレゼンテーションが行われ、好評のうちに終了した。来年度に向けての取り組みが期待される内容であった。

なお、当日は約550名の教職員が参加し、表彰を祝うとともに、興味深そうにプレゼンテーションに聞き入っていた。



総長から表彰状を受け取り、握手を交わす受賞者

○総長賞（海外研修）

「実験廃棄物の分析システム構築」

工学系等安全衛生管理室実験廃棄物処理WG（代表者：栄 慎也、小竹 玉緒）

○総長賞（国内研修）

「柏キャンパス外国人研究者受入促進 web サイト」

数物連携宇宙研究機構WG（代表者：小澤 みどり）

「給与業務システムによる給与業務の効率化」

医学部附属病院人事労務チーム給与担当（代表者：内田 千代美）

○業務改善プロジェクト推進本部長賞（自己研鑽費用補助）

「事務部若手職員による業務改善の企画・立案と遂行への取り組み～事務部ポータル構築と研究室キャラバン～」

分子細胞生物学研究所 若手一同（代表者：米畑 宏美）

「事務担当者検索エンジンの開発と大学事務のマーケティング」

工学系研究科 チーム列品館（代表：齋藤 智）

「各種研究員管理システム・人事申請システム・兼業管理システムの構築・実施」

先端科学技術研究センター企画調整チーム（代表：今井 雅、平野 裕士）

○特別賞（コミュニケーションセンター商品）

「競争的資金の制度改善の実現」

本部外部資金戦略グループ（代表者：江頭 基）

「検査部自動検査システムと試薬の同時選定による7億5,955万円（5年分）の削減達成」

医学部附属病院検査部検体搬送システム更新の検討グループ（代表：岡部 健二）

「固定資産に係る経理情報報告の改定」

生産技術研究所 伊藤正則



受賞者一同。総長とともに記念撮影

※各課題の詳細につきましては業務改善グループHPをご覧ください。

[http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/gakunai/gen/gen6/index\\_j.html](http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/gakunai/gen/gen6/index_j.html)

（東大ポータルトップページ→「事務組織/所掌/座席表」→業務改善G）

一般

**本部学生支援グループ**

**SiLR（三四郎池のランドスケープ・リノベーション）企画成果報告会が開催されました！**

SiLR（三四郎池のランドスケープ・リノベーション）は、12月21日（日）に本郷キャンパス内、情報学環・福武ホールにてSiLRの企画成果報告会を開催した。当日は、「秋の三四郎池ウィーク」にて展示した調査結果に加えて、今後の三四郎池の整備方針について発表させていただいた。発表後のパネルディスカッションでは、大変有意義な議論を行うことができた。



SiLR 成果報告会@福武ホール

SiLRは、本学創立130周年記念の学生企画として実施されているもので、学生と大学が共同で三四郎池に関する調査および整備方針の検討を進めている。今回発表させて頂いた調査結果や三四郎池の整備方針については、今後、SiLRのHP（<http://www.silr.org/>）にて順次公開する予定である。今後も、各関係主体と連携をとりながら、議論を深めていきたいと考えている。

三四郎池の整備に関心のある方、活動に参加したいという方は、ぜひ HP をご覧下さい。



SiLR 成果報告会終了後の学生企画メンバー

SiLR の取り組みについての問い合わせ先：本部学生支援グループ（内線 22524）担当：渡邊



**部局**

大学院新領域創成科学研究科  
新領域創成科学研究科創立 10 周年  
記念式典を開催

10月17日（金）、柏キャンパスにて、新領域創成科学研究科創立10周年記念シンポジウムおよび記念式典が挙行された。環境棟F Sホールで行われたシンポジウムには180名の参加者があり、本研究科の教員を中心とした6名の講演者から、学融合の成果と国際化の推進に関する講演があった。その後、柏図書館メディアホールで行われた記念式典では、雨宮研究科長の挨拶に続き、濱田理事・副学長、蝦名文部科学省高等教育局国立大学法人支援課企画官、依田千葉県総合企画部長、北澤科学技術振興財団理事長から、本研究科に対する期待と激励の祝辞を頂戴した。続いて、研究科長と各研究系長等による「研究科の現状と未来」と題した講演が行われ、この10年の成果とともに将来構想などを紹介した。記念式典には130名の列席があり、盛況のうちに終了した。

引き続き、レストラン「憩い」で祝賀会が行われ、歴代研究科長や本学の教職員だけでなく、柏市長、流山市長、柏支援会等地域の方々も多数列席された。本研究科設立時のエピソードや、地域の大きな期待などについてのスピーチとともに、和やかな懇談が夜遅くまで繰り返された。

当日は、まさに秋天好日ともいえる天候に恵まれたこともあり、実り豊かな華やいだ会となった。



雨宮研究科長の挨拶



濱田理事・副学長の祝辞



祝賀会でのスピーチ（似田貝元研究科長）

**部局**

生産技術研究所  
「千葉実験所公開」開催される

11月14日（金）、生産技術研究所附属千葉実験所公開が開催された。今回も、千葉実験所の特徴である大規模実験設備を中心とした30研究室による24研究テーマの一般公開と特別講演、自主講演、デモンストレーションが行われた。

今回の特別講演は、サステナブル材料国際研究センターおよびエネルギー工学連携研究センターを代表する形で、前田教授、堤教授による「資源・エネルギー・環境への取り組み」が行われ、多くのエネルギー・材料・



環境関係者の方にお集まりいただいた。また一方で、須田実験所長らの研究グループによる位置エネルギーを活用した省エネ型都市交通システム(エコライド)実験コース公開式典も執り行われ、テープカット、実物のデモンストレーションが行われた。また、それに先駆けて、記者会見も行われた。

来賓者数は711人、公開関係者を合わせて約900人。近隣の小・中学生を対象とした見学会も定着し、弥生小学校、轟町小学校の生徒が訪れ、林准教授らの引率の下に、賑やかに展示場を巡回した。昨年度に比べ、一般参加者及び小中学校の参加者は大幅に増加した。また、公開に合わせて生研同窓会パーティーも華やかに開催された。



公開されたエコライドの実験車両



実験コース公開式典のテープカット



大学院生の説明を聞く小学生たち

大学院教育学研究科・教育学部  
教育学研究科附属心理教育相談室  
第3回公開講座開催

教育学研究科附属心理教育相談室では毎年1回、公開講座を行っている。その第3回公開講座が11月16日(日)14時～17時まで赤門総合研究棟200A番教室で開催された。テーマは「関係障害という視点からみた発達障害」。現在、発達障害という名称でさまざまな問題が一括してくられてしまっており、家庭や教育の現場だけでなく、心理臨床の現場でも混乱を呈している。そこであらためて発達障害とは何かということや、関係としてみた発達障害の理解と対応を、自閉症を中心に精神科医である小林隆児先生にお話しいただき、次に関係性を大切にしたい。あたたかな地域支援のネットワークのなかで、地域の親や子どものところを支援している臨床心理士の栗原はるみ先生から、お話をいただいた。



公開講座の1コマ

小林先生は「ここは日々の人との関わりをつみかさねていくことによって、次第に形づくられていくものであり、関係をぬきにしてここらの問題を考えていくことは不可能である」ということを具体的な事例を通して力説され、栗原先生は「多職種の専門家同士のつながりのなかで、子どもと子どもの問題に悩む親をどのように支援するか」という、具体的なあり方を提示して下さった。

最後におふたりの講演をうけてのシェアリングがフロアの人々とおこなわれた。この講演で話題となったことは、私たちが発達障害というものをどのように捉えるかについて考えるヒントを示すと同時に、これから心理臨床家がどういう点に留意しながら、心理支援をしていくべきかについての指針を提示するものとなった。聴衆は約130名であった。

#### 大学院人文社会系研究科・文学部

#### 外国人留学生見学旅行を実施

部局

11月24日(月)・25日(火)の両日、恒例の外国人留学生見学旅行を実施した。参加者は、留学生35人、引率の教職員等8人の合計43人。

8時30分過ぎに東大本郷の赤門裏から貸切バスで出発。初日は肌寒く今にも雨が降り出しそうな曇り空の中、首都高速、中央道そして長野自動車道を進み、3時間程で長野県松本市に到着。日本最古の小学校のひとつである重要文化財『旧開智学校』を見学。信州名物のそば定食で昼食を済ませた後、国宝『松本城』を見学。五層六階の大天守は現存する最古のもので、内部は上の階にあがるにつれ階段が急勾配となり、戦国時代そのままの雰囲気を感じられた。

降り始めた雨が本降りになる中、岡谷市に移動。予定時刻より遅れて『岡谷蚕糸博物館』に到着。明治から昭和初期にかけて飛躍的に発展した岡谷地方の製糸業の足跡、蚕種・養蚕・製糸、日本に唯一現存するフランス式繰糸機など、機械・器具類・記録資料について説明を受け、当時の日本経済を支えた先人の苦労を偲ぶ貴重な機会となった。

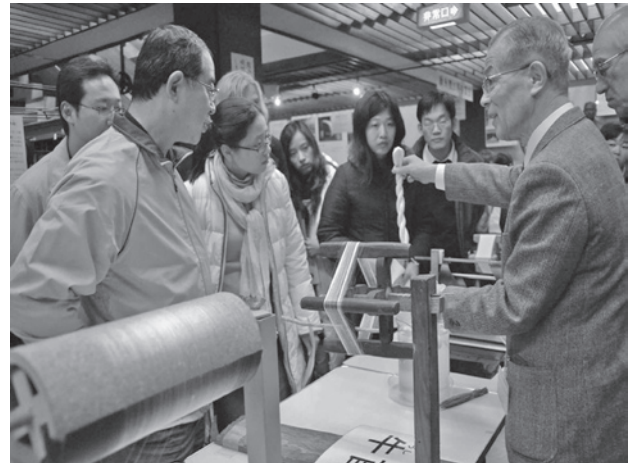
ようやく初日最後の行程である『諏訪大社下社秋宮』を参拝。その後、暗闇の中、足早にバスに乗り、宿泊地である上諏訪温泉に到着。洋風建築片倉館にある『千人風呂』で疲れを癒した後、夕食を兼ねた懇親会を行った。和やかな雰囲気の中、参加者相互の親睦を深め楽しいひと時を過ごした。

翌日は朝から好天に恵まれ、留学生旅行最大の目的地のひとつである中山道『馬籠宿』に移動。石畳と急峻な坂が連なる『馬籠宿』は、江戸時代の宿場の風情が今も残る。早速、文豪島崎藤村が幼少期を過ごした『藤村記念館』を見学。

昼食の栗おこわを存分に味わった後、最後の見学地である『妻籠宿』に到着。『馬籠宿』と同じく中山道の宿場として整備された『妻籠宿』は、現在国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、出梁造りに堅繁格子、卯建のある軒が続く道筋は江戸時代そのもの。各々が赴くままに散策し、江戸時代にしばしタイムスリップ。すべての行程終了と同時に突然の雨。14時20分頃帰路についた。

バスは予定時刻より若干遅く雨の中19時20分頃本郷

構内に到着。こうして今年の見学旅行は、日本の歴史と文化、美しい自然を実感しながら、留学生同士の触れ合いなど、参加者に多くの思い出を残し無事終了した。



岡谷蚕糸博物館にて熱心に説明を聞く様子



妻籠宿にて記念撮影

#### 大学院教育学研究科・教育学部

#### 留学生旅行で富士山と陶芸を堪能

部局

11月26日(水)、教育学研究科では恒例の秋の留学生旅行を行った。留学生19人、日本人チューター5人、教職員5人が参加、富士山麓の自然と文化に触れる貴重な旅となった。

8時30分にバスで本郷キャンパスを出発。前日の雨も上がってきれいな青空が広がり、山梨県に入るあたりから、雪をいただいた富士山が間近に迫ってきた。まず「忍野八海」を訪ねる。富士のわき水が美しい。池は深いところで10メートルあるというが、透明な水のなかに鱒などの魚が泳ぎ回る様子が印象的であった。

名物の「ほうとう」でお腹を満たした後、地元の陶芸教室で陶芸に挑戦した。「ろくろ」組と「手こね」組に分かれ、職員の方の指導でろくろを回したり粘土をこねたりの作業に入った。これには皆が時間を忘れて熱中した。初めてにしてはずいぶん見栄えの良い茶碗、皿、壺などが出来上がった。いずれこれが窯で焼かれて「作品」

となって送られてくるとのことで、今から楽しみである。陶芸に熱中しすぎて予定の時間をこえ、その後に予定されていたワインの試飲は行わずに帰ることになったが、大いに満足して19時すぎに無事赤門前に到着、解散となった。



雪をいただく雄大な富士山の前に記念撮影



名物の「ほうとう」に舌鼓を打つ



陶芸教室で、ろくろに挑戦

大学院農学生命科学研究科・農学部  
**千葉演習林 紅葉の猪ノ川溪谷 特別ガイドを実施**

11月29日(土)、農学生命科学研究科附属千葉演習林の秋の一般公開日に合わせ、本学の教職員とその家族・友人を対象とした特別ガイドを実施した。

本学の教職員で、演習林に行きたいが機会がなくて

行ったことがないという方が多いため、初めて企画することになった。

学内広報と東大ポータルで募集したところ、28名もの参加者があった。法学政治学研究科、物性研究所、理学系研究科、史料編纂所、医学系研究科、海洋アライアンス、本部産学連携グループ、本部キャリアサポートグループ、保健センター、医科学研究所、工学系研究科、農学生命科学研究科と極めて多様な部局から参加していただき、自然が好きな参加者同士の交流にもなった。演習林広報情報室の2名と千葉演習林ボランティア会 Abies の会員2名が、それぞれ2班に分かれてガイドを行なった。

まず始めにJR久留里線の上総亀山駅に集合し、行きはガイドと一緒に千葉演習林までの公道と演習林内の猪ノ川林道を歩き、帰りはグループごとに駅まで自由に戻っていただいた。

紅葉は見頃で、イロハモミジの赤、イタヤカエデの黄、メタセコイアの橙など、色とりどりに色づいており、秋の自然を満喫していただいた。

千葉演習林の歴史や動植物、地形、教育研究など、様々な話を交えてガイドを行なったので、有意義な散策になったとの感想をいただいた。

1日中晴れの天気予報だったが、昼ごろから予想外の雨が降り出してしまった。傘を家に置いてきてしまった人もおり戸惑ってしまったが、雨上がり後にくっきりとした虹が湖と紅葉の山の上にかかったのが心に残った。ぜひまた企画して欲しいとのご要望を多くの方からいただいた。



見どころのひとつである黒滝

大学院工学系研究科・工学部  
**工学系研究科附属総合研究機構 光量子科学研究センターの発足記念国際シンポジウム・開所式が開催される**

12月1日(月)に理学部化学本館講堂にて、工学系研究科附属総合研究機構光量子科学研究センター(センター長・五神真教授)の発足記念国際シンポジウム・開所式が開催され、産官学から約100名の参加があった。光量子科学研究センターは本学における光科学の中核的

な教育研究拠点として、また、国際的な拠点連携のハブとして、2008年10月1日に発足した。

国際シンポジウム「先端光量子科学」では、光量子科学をリードする香取秀俊准教授（工学系研究科）、Prof. Andre Mysyrowicz (ENSTA Ecole Polytechnique)、緑川克美博士（理化学研究所）Prof. Farhad Faisal (Universität Bielefeld)、山内薫教授（理学系研究科）の講演と熱心な討論があった。シンポジウムに引き続き開所式が行なわれた。寺井隆幸総合研究機構長による開式の辞の後、保立和夫工学系研究科長、平尾公彦副学長、徳永保文部科学省高等教育局長、樽茶清悟量子相エレクトロニクス研究センター長からの挨拶に続き、同センターが参画している文部科学省「最先端の光の創成を目指したネットワーク研究拠点プログラム」のプログラムディレクターである加藤義章教授（光産業創成大学院大学）から祝辞をいただいた。センター長から設立の経緯と研究教育活動の計画について説明があった。

シンポジウム・開所式の後に講堂の前にて懇親会が行われ、小宮山宏総長による挨拶、文部科学省坂田東一文部科学審議官、電気通信大学植田憲一教授の祝辞を頂き、センター発足を祝い、盛会のうちに閉会した。



開所式で挨拶をされる徳永文部科学省高等教育局長



懇親会での小宮山総長と坂田文部科学省文部科学審議官



総合図書館では、12月1日（月）、再建80周年の記念式典を挙行了。この式典は、関東大震災により焼失した総合図書館がロックフェラー氏をはじめ国内外からの多大の支援により昭和3年（1928年）12月1日に再建されたことを記念して行われたものである。

式典のはじめに、記念プレートの除幕が行われた。小

宮山宏総長から再建80周年への祝辞と総合図書館の今後に寄せる期待が述べられ、正面玄関に設置された記念プレートの除幕が小宮山総長と西郷和彦附属図書館長により行われた。このプレートは、内外から寄せられた善意を広く、末永く知っていただくため、この式典に合わせ設置されたものである。



記念プレートを囲む小宮山総長と西郷附属図書館長

式典は、会場を総合図書館大会議室に移して進められた。西郷館長から、ロックフェラー氏の寄付により総合図書館が建築され、国内外の多数の方々からの蔵書の寄贈により総合図書館が再建されたこと、更に歴代館長による改革が進められたことへの深い感謝と今後の決意が式辞として述べられた。高橋宏志理事・副学長から、80周年を迎えたことの祝意、大学における総合図書館の今後の活動への期待が述べられた。落合卓四郎・元館長（日本体育大学学長）から、ロックフェラー氏の総合図書館をはじめとする本学への寄与やロックフェラーと姉崎、岸本の両歴代館長との逸話を交えて、祝辞が述べられた。



祝辞を述べる高橋理事・副学長

この後、岸田省吾工学系研究科教授により、講演「総合図書館の過去と未来」が行われた。スライドを使用して東京大学創設時の図書館から再建に至る歩みについて解説され、さらに最近の世界の大学図書館建築を紹介された。今後の総合図書館建築の方向を示唆する講演で

あった。本式典は、約 50 名が参加し盛会裡に終了した。



岸田教授のご講演

式典終了後、祝賀会が工学部 2 号館の松本楼において行われ、元館長の廣渡清吾社会科学研究所教授から館長当時のエピソードを交えたご挨拶をいただいた。祝賀会には、本学教職員及び図書館 OB など約 50 名が参加し、再建 80 年を祝した。

#### 生物生産工学研究センター

平成 20 年度生物生産工学研究センターシンポジウム開催される

12 月 5 日（金）、6 日（土）の二日間、生物生産工学研究センターと文部科学省特定領域研究「植物膜輸送」（代表 西澤直子農学生命科学研究科教授）の共催シンポジウム「土壌-植物系の物質移行：生産性向上を目指して」を弥生講堂にて開催致した。学内外の 18 名の研究者に植物と土壌微生物の共生や植物の栄養環境応答等についてご講演をいただき、200 名を超える参加者の皆様と活発なご議論をいただいた。人口増加に伴って世界的に求められる食料増産へ向けての今後の研究の方向性について、有意義な示唆が得られたものと考えている。

この場をお借りいたしまして、御協力、御来場いただきました皆様方に厚く御礼申し上げますとともに、今後の生物生産工学研究センターの発展にも御協力賜りますようお願い申し上げます。



挨拶をする西澤特定領域研究代表



当日の討論の様子

#### 大学院農学生命科学研究科・農学部

動物慰霊祭開催される

12 月 5 日（金）11 時から、弥生キャンパス内の動物慰霊碑前で、平成 20 年度（第 90 回）動物慰霊祭が行われた。

当日は、明石博臣獣医学専攻長及び望月学准教授の挨拶があり、引き続いて参列者が、研究・実験に供され生命科学の発展に大きく寄与した動物の霊に思いをいたし献花を行った。時折薄日の差す天候の中、教職員、学生を中心に 200 名を超える参列者があった。



慰霊碑に献花する生源寺研究科長（左）と明石獣医学専攻長（右）



慰霊碑に献花する学生達

大学院総合文化研究科・教養学部



三鷹国際学生宿舎で「三鷹市民と三鷹国際学生宿舎生との集い」開催される

12月6日(土)11時から、三鷹国際学生宿舎において、本学部主催、三鷹市後援による「三鷹市民と三鷹国際学生宿舎生との集い」が開催された。この集いは、宿舎に居住する宿舎生、特に約3割を占めている留学生と地域住民との交流を深めることを目的として毎年開催しているものであり、平成6年に第1回を開催して以来、今回で15回目となる。

集いは二部構成となっており、はじめに小島憲道総合文化研究科長・教養学部長及び清原慶子三鷹市長からの挨拶があった後、第一部として石浦章一総合文化研究科教授による「いつまでも老いない脳をつくる」と題した講演が行われた。講演は、アルツハイマー病、遺伝子などの話を含んだ脳に関する内容で、時折ユーモアも交えた分かりやすい説明で進められたため、集まった約100名の参加者はみんなとても熱心に聴講していた。



講演後に行われた質疑応答

13時過ぎからは第二部として、懇親パーティーが行われた。長谷川壽一総合文化研究科副研究科長・教養学部副学部長の挨拶の後、宿舎生を代表して、月崎竜童三鷹国際学生宿舎院生会幹事長の乾杯の発声によりパー

ティーが開始された。

パーティーの中では留学生を中心とした学生参加の企画があり、留学生に日本の印象、三鷹に住んでの感想等を話してもらうインタビューから始まり、宿舎生会司会による「留学生の母国にまつわるクイズ」、音楽演奏が行われた。



舞台上で自己紹介を行う留学生

音楽演奏では、スイスからの留学生であるサンチ・シモンさんによるピアノ演奏、オーストラリアからの留学生リム・サラさんのバイオリンと日本人宿舎生の唐津裕貴さんによるピアノのセッションによる演奏が行われ、参加者全員が聴き入るほどの大変素晴らしいものだった。パーティーには三鷹市民、三鷹国際交流協会会員、三鷹クラブ(旧三鷹寮OBの会)会員等の他に宿舎生も合わせ約170名が参加し、和やかな雰囲気の中交流が行われた。

最後に、干場革治三鷹クラブ世話役、上田大斗宿舎生会委員長の挨拶があった後、山田茂三鷹国際学生宿舎運営委員会委員長の閉会の挨拶をもって、15時に盛会のうちに終了した。



リム・サラさんと唐津裕貴さんによる演奏

## 東洋文化研究所



### アジア貴重古籍の電子図書館建設と 保全事業シンポジウムを開催

12月6日（土）10時から、経済学研究科棟第1教室において、東洋文化研究所主催でアジア貴重古籍の電子図書館建設と保全事業シンポジウム「アジア古籍電子図書館からアジア知識庫へ－法華経と古典知の冒険－」が開催された。

東洋文化研究所は1941年の創立以来、アジア古典資料の収集・保存に努めてきた。それらの貴重資料はデータベース化され、国内外に先駆けて情報化と公開を進めており、2005年度からは「アジア古籍電子図書館」を構築している。今回のシンポジウムは、これまでの成果を報告すると同時に、データベースを単に個々の資料庫にとどまらず、アジア知識庫へ進化させる方法を探ろうと、開催したものである。

関本照夫所長の挨拶に引き続き行われた第一部は、「法華経と現代」と題して、政治・経済・宗教というさまざまな分野を専門とする本研究所の教員4名により、大乘仏教の經典である「法華経」に対して問題提起と討論を行った。

休憩をはさみ午後に行われた第二部では、国内はもとより、中国国家図書館と台湾・故宮博物院からも招いた講師により、アジアの古典籍に関するさまざまなデータベース、アーカイブについて、大学や図書館、博物館における最新の取り組みの状況について報告が行われた。

当日は、研究者、学生、図書館関係者や一般市民など、160名の参加があった。参加者からは「多様な角度からの議論があってもよかった」などといった感想が寄せられた。

本研究所では、今後もアジア貴重古籍資料の電子化に努め、公開を進めていきたいと考えている。

最後になったが、会場の提供にご配慮いただいた経済学研究科関係者各位に、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。



東文研教員によるディスカッション



会場の参加者



## 空間情報科学研究センター

### CSIS DAYS 2008 を開催

12月11日（木）～12日（金）に、柏キャンパス総合研究棟6階大会議室において、空間情報科学研究センターの主催によりCSIS DAYS 2008（全国共同利用研究発表大会）が開催された。CSIS DAYSは、空間情報科学の最新の学術研究を広く周知し、関連する研究者の交流の場を実現するために毎年行われている学術大会であり、全国共同利用施設である空間情報科学研究センターの主要な行事の一つである。今年度は1)災害・防災、2)データ・手法・システム・教育、3)生態系・地形・土地利用、4)人口・生活・都市の4つのセッションが開催され、合計53件の発表が行われた。発表の形式は5分間の口頭発表とポスターセッションを組み合わせたものであり、多くの活発な議論が行われた。参加者数は約160名であった。



CSIS DAYS 2008 のポスターセッション



「東大理学部で考える女子高校生の未来」開催される

12月14日（日）、女子高校生の進学支援イベント「東大理学部で考える女子高校生の未来」がクリスマスイルミネーションで華やかに飾られた小柴ホールで開催された。

Part 1の女子高校生のためのサイエンスカフェ（実行委員長・情報科学科稲葉真理准教授）は常行真司広報委員長の挨拶のあと、本研究科天文学専攻を修了し現在はオーストラリア国立大学ストロムロ主任研究員である小林千晶氏の迫力ある講演「銀河考古学－星の化学組成が語る宇宙の歴史－」が行われた。質疑応答も活発に行われた。

そのあと小柴ホール前のホワイトで大学生活、進路選び、そして研究についてTAの方と話をいただいた。さらに情報科学科の平木敬研究室と天文学科の嶋作一大研究室の見学を行った。54名の参加者からは、「大学院生や参加者と話すことができて刺激になった」、「ぜひまた参加したい」など多くのコメントが寄せられている。

Part 2の親子参加のシンポジウム（実行委員長・国際交流室五所恵実子講師）では比屋根肇准教授の司会のもと、山本正幸研究科長の挨拶に続き野中勝男女共同参画委員長から理学系の取り組みが紹介され、さらに化学科学部4年の西山枝里氏、物理学専攻修士課程2年松井千尋氏、生物科学専攻博士課程1年の小寺千絵氏と真行寺千佳子准教授から、現在に至るまでのキャリアを紹介していただき、そのあとパネルディスカッションを行った。

女子高校生はもちろん保護者や高校の先生方も参加し、当初の参加人数100人を大幅に越える151名が参加し有意義な会になった。

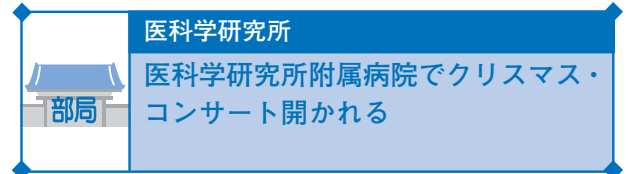
大学が社会に開けることで、大学と社会、両方に大きな進展があると感じられたイベントだった。



サイエンスカフェで各グループをまわる  
小林千晶氏と平良眞規准教授



親子参加シンポジウムでパネルディスカッションの  
司会を行う五所恵実子実行委員長



医科学研究所

医科学研究所附属病院でクリスマス・コンサート開かれる

12月16日（火）18時30分から、医科学研究所附属病院において恒例のクリスマス・コンサートが開催された。附属病院では、毎年クリスマス・コンサートを開催しており、病院で診療を受けている患者さんやそのご家族の楽しみの1つになっている。今年は、NHK東京児童合唱団の皆さんがボランティアで来て下さり、まさしく天使の歌声を聴かせくれた。

NHK東京児童合唱団は、設立56年の歴史を持つ合唱団で、テレビ番組にも多数出演し、海外での公演活動も行っている日本のトップレベルの児童合唱団である。合唱団の構成は、小学2年から4年のジュニア、5年から中学2年のシニア、中学3年から高校2年のユースシンガーの3つのグループから成っていて、今回は約60名の団員のみなさんが、美しいハーモニーをご披露くださった。

会場のトミーホールには、入院中あるいは外来通院をしている患者さんの他、ご家族の方々、近隣の方々、団員のご父兄が集まり、看護師や医師が見守る中、約1時間にわたってクリスマスにふさわしい5つの作品を楽しんだ。曲目は「くるみ割り人形の序曲」を皮切りに、谷川俊太郎作詞、林光作曲の「クリスマス」、東欧の合唱曲「Jubilate Deo」、おなじみのクリスマス曲のメドレー「キャロルによるカノン」、そしてアンコールにはフレイザー作曲の「クリスマスの季節（This Christmastide）」。

演奏の合間に、指揮者の加藤先生が子供達に「愛って何ですか？」と問いかけると、子供達が一生懸命考えて思い思いの愛について答えると、会場は和やかな雰囲気にも包まれた。演奏の最後に、メンバー全員で“A Merry X'mas for you!”と声を合わせると、しばらくの間拍手が鳴り止まなかった。

会場にはサンタの衣装を着た医師や看護師が参加し、最後にかわいいサンタ姿の尾上看護部長が、合唱団及び各関係者への感謝の言葉を述べ、1時間にわたるこの会を締めくくった。病める者も、そうでない者も、歌の力で慰められ、心を満たされたひとときであった。





曲目を紹介する指揮者とNHK 東京少年合唱団



合唱を楽しむ患者さん達、その家族と病院関係者



留学生代表で閉会の辞を述べる Ismael Gritli さん



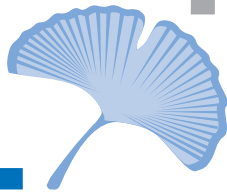
参加者全員による記念撮影

#### 医科学研究所



#### 第12回留学生・外国人研究者のための懇親会、開催される

12月17日(水)、医科学研究所主催の「留学生・外国人研究者のための懇親会」が4年ぶりに開催された。16ヶ国42名の留学生・外国人研究者及び所長以下関係職員15名の計57名が出席した。懇親会は清野宏教授(国際交流委員長)の開会の辞、清木元治所長の挨拶と乾杯により始まり、途中留学生・外国人研究者一人一人による自己紹介をはさんだ2時間のイタリアン立食パーティとなった。今回は過去に比べ参加人数が多く、大変有意義な会となった。研究室の異なる外国人同士は普段ほとんど接点がないため、このような機会を喜ぶ声が多数寄せられた。2時間はあっという間に過ぎ、会は留学生代表 Ismael Gritli (スウェーデン出身) さんによる閉会の辞と参加者全員の記念撮影で幕を閉じた。教員ではなく留学生による閉会の辞というのは、国際交流という観点から提案された初の試みであったが、Ismael さんは各国の言葉で「乾杯」をするなど、全員参加型の工夫に富んだスピーチを披露し、会場に一体感を生み出した。帰り際には、楽しいひとときに名残惜しさを感じつつメールアドレスを交換する留学生らの姿も見られ、今回の懇親会が本研究所で研究活動を行う外国人同士のネットワーク構築に貢献できたことを感じた。

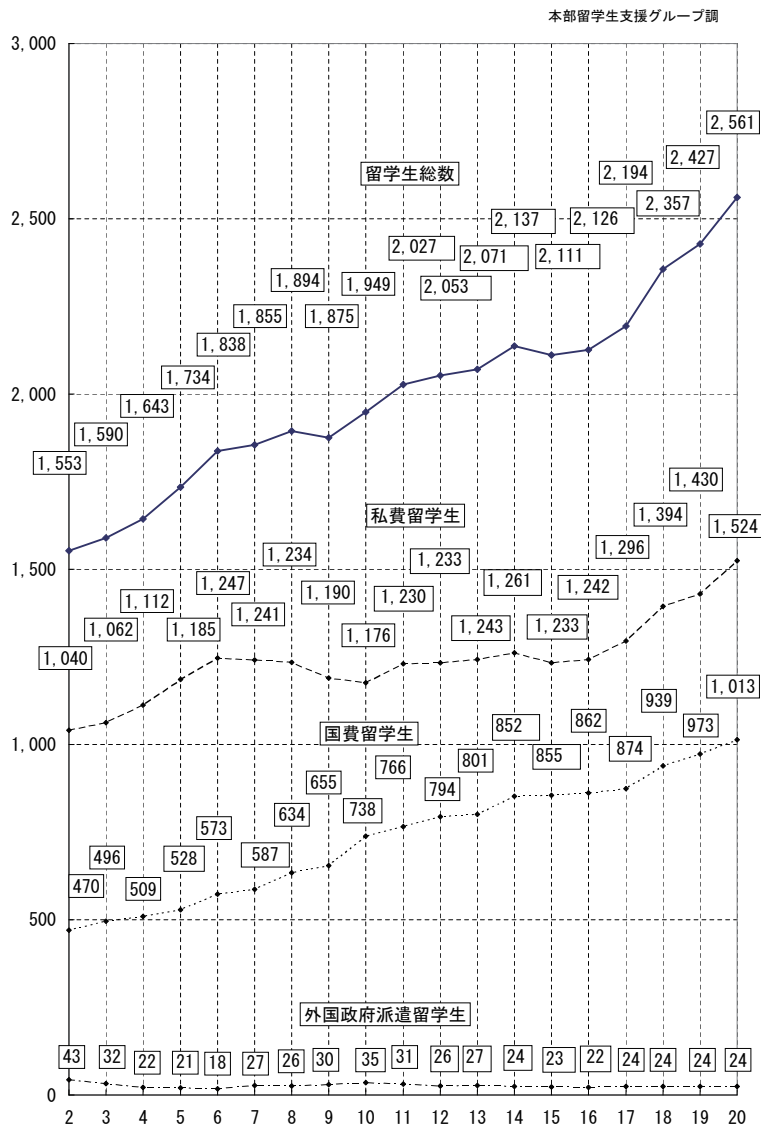


## 本部留学生支援グループ

平成20年度外国人学生数—国費外国人留学生数 1,013人、私費外国人留学生数 1,524人、外国政府派遣留学生数 24人、その他の外国人学生（在日外国人学生）数 230人—

本学では、毎年5月と11月の年2回、同月1日現在の外国人学生数を調査している。これをもとに各年度11月1日現在の外国人留学生数の推移を示した。また、2008年11月1日現在の外国人学生数は以下のとおりである。

東京大学外国人留学生受入数の推移  
(各年度11月1日現在)



全学生数に対する外国人留学生数の比率

事 項	A 全学生数 (人)	B 日本人学生数 (人)	C 外国人留学生 (人)	C/A 比 率	平成19年度 比 率
学部レベル	14,096	13,680	283	2.01%	1.87%
大学院レベル	14,310	11,943	2,278	15.92%	15.30%
計	28,406	25,623	2,561	9.02%	8.56%

※全学生数欄には「その他の外国人学生」(在日外国人学生)を含む。  
 ※学部レベル学生数(全学生数、外国人留学生数)には、学部特別聴講学生24名を含む。  
 ※大学院レベル学生数(全学生数、外国人留学生数)には、大学院特別聴講学生9名、大学院科目等履修生1名を含む。  
 ※研究所に所属する外国人研究生12名は、大学院レベル学生数(全学生数、外国人留学生数)を含む。  
 ※比率欄の数は四捨五入。

平成 20 年度 外国人学生数

平成 20 年 11 月 1 日現在

区 分	学部				大学院								研究所等		合 計			
	学生		研究生等		修士課程		専門職 学位課程		博士課程		外国人 研究生等		大学院 研究生				研究生	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
国費 (a)	86	40	0	0	139	105	2	4	308	146	112	71	0	0	0	0	647	366
	126		0		244		6		454		183		0		0		1013	
外国政府派遣 タイ	5	4	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	7	5
	9		0		2		0		1		0		0		0		12	
外国政府派遣 マレーシア	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	0		0		0		0		1		0		0		0		1	
外国政府派遣 シンガポール	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
	1		0		1		0		0		0		0		0		2	
外国政府派遣 インドネシア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
	0		0		0		0		0		0		1		0		1	
外国政府派遣 韓国	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0
	8		0		0		0		0		0		0		0		8	
計 (b)	14	4	0	0	3	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	19	5
	18		0		3		0		2		0		1		0		24	
私費 (c)	36	47	22	18	251	224	7	7	317	277	125	119	7	4	7	4	772	700
	83		40		475		14		594		244		11		11		1472	
小計 (d) ((a) + (b) + (c)) (在留資格「留学」の者)	136	91	22	18	393	329	9	11	626	424	237	190	8	4	7	4	1438	1071
	227		40		722		20		1050		427		12		11		2509	
私費 (e) (在留資格「留学」以外の者)	10	6	0	0	2	3	1	0	9	7	3	9	1	0	0	1	26	26
	16		0		5		1		16		12		1		1		52	
外国人留学生合計 (f) ((d) + (e))	146	97	22	18	395	322	10	11	635	431	240	199	9	4	7	5	1464	1097
	243		40		727		21		1066		439		13		12		2561	
その他の外国人学生 (g)	116	17	0	1	28	15	4	1	29	15	4	0	0	0	0	0	181	49
	133		1		43		5		44		4		0		0		230	
外国人学生 総計 (f+g)	262	114	22	19	423	347	14	12	664	446	244	199	9	4	7	5	1645	1146
	376		41		770		26		1110		443		13		12		2791	

学部及び研究科等別外国人留学生数

平成 20 年 11 月 1 日現在

区 分	学部				大学院								研究所等		小 計		合 計	
	学生		研究生等		修士課程		専門職 学位課程		博士課程		外国人 研究生等		大学院 研究生					
	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費	国費	私費
学部																		
教養学部 (前期課程)	63	63															63	63
法学部	7	4															7	4
医学部																	0	0
工学部	29	27		10													29	37
文学部	5	2															5	2
理学部	7	4															7	4
農学部	1	3		5													1	8
経済学部	6	7															6	7
教養学部	7	1		24													7	25
教育学部	1	1															1	1
薬学部		5		1													0	6
小 計	126	117	0	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	126	157
大学院																		
人文社会系研究科					11	19			14	49	22	37		3			47	108
教育学研究科					3	15			3	24	6	8		1			12	48
法学政治学研究科					5	25	1	3	13	22	8	22					27	72
経済学研究科					8	10			1	3	2						11	13
総合文化研究科					34	41			34	94	30	30		1			98	166
理学系研究科					6	5			17	14	3	6					26	25
工学系研究科					83	182			190	172	44	66		4			317	424
農学生命科学研究科					16	30			63	61	25	20		2			104	113
医学系研究科					3	27	2	1	30	77	6	10					41	115
薬学系研究科					3	5			9	5		1					12	11
数理学研究科					6	1			6	1	1						13	2
新領域創成科学研究科					24	63			36	52	5	16		1			65	132
情報理工学系研究科					26	29			31	21	16	10					73	60
学際情報学府					16	31			7	17	15	28		1			38	77
公共政策学教育部							3	11				2					3	13
小 計	0	0	0	0	244	483	6	15	454	612	183	256	0	13	0	0	887	1379
研究所等																		
医科学研究所																	3	0
地震研究所																	1	0
生産技術研究所																	4	0
分子細胞生物学研究所																	2	0
先端科学技術研究センター																	2	0
小 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0
合 計	126	117	0	40	244	483	6	15	454	612	183	256	0	13	0	12	1013	1548

国又は地域別外国人留学生数

平成 20 年 11 月 1 日現在

区 分	国費							私費							合 計						総計
	学部		大学院等					学部		大学院等					学部		大学院等				
	学部	研究 生等	修士 課程	専門職 学位 課程	博士 課程	研究 生等	小計	学部	研究 生等	修士 課程	専門職 学位 課程	博士 課程	研究 生等	小計	学部	研究 生等	修士 課程	専門職 学位 課程	博士 課程	研究 生等	
アジア																					
パキスタン			1		12	2	15			4		2		6	0	0	5	0	14	2	21
インド	1				11	1	13			2		5		7	1	0	2	0	16	1	20
ネパール	1		1		3		5			5		6	1	12	1	0	6	0	9	1	17
バングラデシュ	1		6		15	2	24			13		6	1	20	1	0	19	0	21	3	44
スリランカ	1		4		5	1	11			4		9		13	1	0	8	0	14	1	24
ブータン							0			1				1	0	0	1	0	0	0	1
オマーン					1		1							0	0	0	0	0	1	0	1
ミャンマー			4		3	1	8						2	2	0	0	4	0	3	3	10
タイ	11		18		29	10	68	9		8		9	6	32	20	0	26	0	38	16	100
マレーシア	6		5		10	2	23			4		5	3	12	6	0	9	0	15	5	35
シンガポール	2				1	1	4	1	1	1		2		5	3	1	1	0	3	1	9
インドネシア	7		12	1	15	2	37			20		12	8	40	7	0	32	1	27	10	77
フィリピン			4	1	15	1	21		1	3		3		7	0	1	7	1	18	1	28
韓国	20		44	1	98	28	191	25	7	108	4	186	48	378	45	7	152	5	284	76	569
中国	5		27	1	97	54	184	77	11	213	6	206	108	621	82	11	240	7	303	162	805
モンゴル	10		5		3	1	19	2		5	2	3		12	12	0	10	2	6	1	31
ベトナム	27		19		18	1	65	1	1	18		18	3	41	28	1	37	0	36	4	106
カンボジア	2		3		2		7						1	1	2	0	3	0	2	1	8
ラオス	1						1			3		3		6	1	0	3	0	3	0	7
マカオ	3						3								3						3
台湾							0		1	40	3	65	36	145	0	1	40	3	65	36	145
小 計	98	0	153	4	338	107	700	115	22	452	15	540	217	1361	213	22	605	19	878	324	2061
中近東																					
イラン	1				6	3	10					6	4	10	1	0	0	0	12	7	20
トルコ			4		4	3	11			2		4		6	0	0	6	0	8	3	17
シリア					1	1	2							0	0	0	0	0	1	1	2
レバノン			1		2		3							0	0	0	1	0	2	0	3
イスラエル					1	3	4					1		1	0	0	0	0	2	3	5
ヨルダン			2				2							0	0	0	2	0	0	0	2
イラク					1		1							0	0	0	0	0	1	0	1
アフガニスタン					1		1							0	0	0	0	0	1	0	1
イエメン						1	1							0	0	0	0	0	0	1	1
小 計	1	0	7	0	16	11	35	0	0	2	0	11	4	17	1	0	9	0	27	15	52
アフリカ																					
エジプト					4	1	5			1		4		5	0	0	1	0	8	1	10
スーダン					2		2					1		1	0	0	0	0	3	0	3
チュニジア			2		2	1	5					2		2	0	0	2	0	4	1	7
アルジェリア						1	1							0	0	0	0	0	1	1	1
ケニア							0			1				1	0	0	1	0	0	0	1
ナイジェリア					1		1							0	0	0	0	0	1	0	1
ガーナ						1	1						1	1	0	0	0	0	0	2	2
タンザニア	2		1				3							0	2	0	1	0	0	0	3
コンゴ民主共和国							0					1		1	0	0	0	0	1	0	1
エチオピア			2		1		3							0	0	0	2	0	1	0	3
モザンビーク			1				1							0	0	0	1	0	0	0	1
小 計	2	0	6	0	10	4	22	0	0	2	0	8	1	11	2	0	8	0	18	5	33
オセアニア																					
オーストラリア	4		7		4	2	17			1			1	2	4	0	8	0	4	3	19
ニュージーランド			4	1	1	3	9			2		2	1	5	0	2	4	1	3	4	14
小 計	4	0	11	1	5	5	26	0	2	1	0	2	2	7	4	2	12	1	7	7	33
北米																					
カナダ	1		2		2	5	10		1	5		4	2	12	1	1	7	0	6	7	22
アメリカ	3		8		8	5	24	2	6	5		5	10	28	5	6	13	0	13	15	52
小 計	4	0	10	0	10	10	34	2	7	10	0	9	12	40	6	7	20	0	19	22	74
中南米																					
メキシコ			1		2		3			1				1	0	0	2	0	2	0	4
コスタリカ			1		1		2							0	0	0	1	0	1	0	2
パナマ			1			1	2							0	0	0	1	0	0	1	2
ハイチ			1				1							0	0	0	1	0	0	0	1
ジャマイカ			1				1							0	0	0	1	0	0	0	1
ブラジル	6		11		14	6	37					4		4	6	0	11	0	18	6	41
パラグアイ	1						1					1		1	1	0	0	0	1	2	2
アルゼンチン						3	3							0	0	0	0	0	0	3	3
チリ			2		1		3		1					1	0	1	2	0	1	0	4
ボリビア			1				1							0	0	0	1	0	0	0	1
ペルー					1	3	4			1		1	3	3	0	0	1	0	2	4	7
エクアドル						1	1							0	0	0	0	0	0	1	1
コロンビア			1				1			4				4	0	0	5	0	0	0	5
ベネズエラ			3		1		4							0	0	0	3	0	1	0	4
小 計	7	0	23	0	20	14	64	0	1	6	0	5	2	14	7	1	29	0	25	16	78



Crossroad:  
交差道路や、道が交差するところにある集会場を意味します。産業界と研究者のクロスする場所の意味をこめます。

## 「東京大学アントレプレナー道場」 北京大学との学生交流始まる

### 起業家育成教育プログラムの国際化を推進

本学学生向けの起業家育成教育プログラムである「東京大学アントレプレナー道場（以下“アントレ道場”）」は10月25日（土）に行われたビジネスプランの最終発表審査会で最優秀チーム、優秀チーム（2チーム）、次点チームを選出して、第4期の6カ月にわたるプログラムを終了しましたが、今年度からは選抜チーム学生による北京大学との学生交流イベントが行われることになりました。

この学生交流プログラムはこの数年にわたる本学と北京大学との良好な関係の中で企画されてきたもので、既に10年の歴史がある北京大学ビジネスプランコンテスト（共青团北京大学委員会主催）参加学生と本学アントレ道場参加学生が、お互いに訪問し交流し合うことによって、自らの事業化提案を中国・日本の交差的な視点から捉え、さらにそのビジネスプランのレベルアップを図ろうとするものです。

今回はまず本学学生10名が北京大学を訪れました。11月6日（木）～8日（土）に行われた本プログラムは、北京大学校務委員会副主任の林鈞敬氏による歓迎スピーチに始まり、本学産学連携本部事業化推進部長の各務茂夫教授の「University Entrepreneurship and Social Innovation」と題する講演が続き、その後、学生チームによるビジネスプランのプレゼンテーション（東京大学4チーム、北京大学4チーム）が行われ、活発な質疑応答と更なる改善のための様々な提案が双方の学生からなされました。広大な北京大学キャンパスの学生ガイドによるツアーや市内名跡の視察等もあり、3日間のプログラムは双方の参加学生にとって充実した勉強の場となりました。

2009年2月19日（木）～21日（土）には北京大学学生が本学本郷キャンパスを訪れ、これまで培ったビジネスプランを踏まえて活発な討議による学生交流を行う予定になっています。

## 「東京大学地域振興研究会」が発足

### 首都にある東京大学の 地域振興への貢献を探る

東京大学と地方公共団体との間での情報交換により、地域振興の方策を探る「東京大学地域振興研究会」が発足し、12月1日（月）に第1回設立総会がホテル機山館



#### 【中級コース】

中級コースに進んだのは56人。上級コースに進むには、チームを組むことが条件です。セミナー受講後の懇親会では、ビジネスプランをとにする仲間を探します。コミュニケーション力はビジネスの道への第一歩。



#### 【最終審査会】

審査のポイントの1つであるプレゼンテーションは、いかに短時間でプランの内容を審査員に理解してもらうか、実演も交えるなど各チームで工夫を凝らした内容を披露。本番までに何度も資料を作り直し、ほとんどの学生が当日までの2、3日間は徹夜状態です。

### ～北京への道～

#### 【初級コース】

今年度は160人を超える学生が参加しました。参加の動機は、起業したい、経営の勉強をしたい、起業に関心があった、友人からの誘い、北京に行きたい——など様々。



#### 【上級コース】

7チームが上級コースに進み、指南役であるメンターから、ビジネスプランを具体化する厳しいアドバイスを受けます。1泊2日の合宿以降は、研究と道場との両立に四苦八苦しなから、メンターも夜遅くまで一緒にプランを練ります。体力と気力が勝負です。



#### 【北京大学キャンパスツアーに参加する学生チーム】



で開かれました。同研究会はテクノロジーリエゾンフェロー（TLF）を中核とする地方公共団体関係者と東京大学とのネットワークを強化し、地域の関係者に東京大学の研究成果を広く活用してもらうことにより地域振興に貢献しようとするものです。研究会に先立ち開かれた同日の準備会で会則（案）が全会一致で承認され、主査に神野直彦経済学研究科教授が就任しました。研究会の発足により、TLF研修修了生と東京大学との有機的連携による地域振興の活発化が期待されます。



神野直彦教授  
(地域振興研究会主査)

神野主査は挨拶で、これまでの地域振興の失敗は、外からの力を加えて「発展なき振興を目指したことに重大な問題があった」と指摘。世界恐慌から現在のアメリカの経済危機に始まる世界的混乱や世界紛争といった歴史的経緯を振り返りながら、産業構造を変えるべき時にある今こそ「地域社会が国民国家を形成する社会をデザインすべき」と述べ、地域振興の重要性を強調しました。また、来賓の田口康文科省研究振興局研究環境・産業連携課長は、「研究会でエネルギーを充填して地元で活発に活躍して欲しい」と同研究会との連携による地域振興に期待を寄せました。

西村幸夫先端科学技術研究センター教授は、基調講演『地域振興とこれからのまちづくり』で、様々な事例を紹介しながら、地域の文化、歴史、自然を見つめることにより、地域の課題が自ずと発見され、振興に寄与することを指摘しました。

### TLF修了生からの声

TLF修了者5名による事例・調査研究の報告では、東京大学との連携でありがちだった壁が研修によって取り払われ、ネットワークを活用して様々な事業や施策に東京大学の研究成果や研究者が結びついている例が紹介されました。

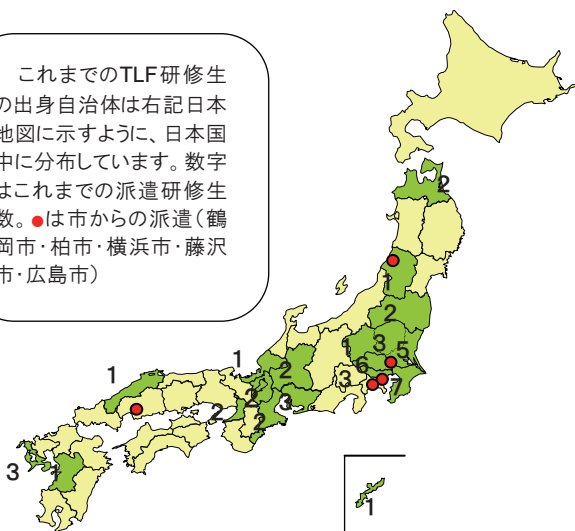
一方、『UCR（産学連携）プロポーザル』については、地域に戻ると地元の大学を優先してしまう、企業に紹介はするが具体的な話までには進まない、マッチする技術がなかなか絞れない——などの現状が報告され、TLFの地域と東京大学を繋ぐ役割が期待されており、ネットワークを強化することの意義が改めて確認されました。

### TLFとは

地方公共団体の関連職員向けに当本部が行う産学官連携人材育成プログラムの修了生をテクノロジー・リエゾン・フェロー（TLF）と称しています。

2000年4月に旧CCRで始まった制度で、2008年4月に産学連携本部が承継し、今期で9期目に入ります。これまで、24都

これまでのTLF研修生の出身自治体は右記日本地図に示すように、日本国内に分布しています。数字はこれまでの派遣研修生数。●は市からの派遣（鶴岡市・柏市・横浜市・藤沢市・広島市）



連絡先：産学連携本部（本部産学連携グループ）  
電話：内線22857（外線03-5841-2857）  
ホームページ：<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

府県・市から53人が派遣されました。研修カリキュラムは、講義と産学連携の実習で構成されており、UCRプロポーザルを支えています。研修修了後には各自治体で産学連携の中心となって活躍することが期待されています。

## 第12回科学技術フォーラム開催 「食糧」 —課題と産学の果たすべき役割—

11月12日（土）、第12回科学技術交流フォーラムが「食糧」をテーマに山上会館で開催されました。食糧、農学分野をテーマとしたフォーラムは今回が初めてで、参加者は約130名と多く、またこのフォーラムを契機に新規に産学連携協議会に加入された企業も目立ちました。今後、「食糧問題」に関する研究会の発足が検討されていますが、参加者のアンケートによると回答者の50%程が「食の安全」研究会に参加したいと関心を寄せておりました。その他、日本の伝統食の機能・美味しさの解明、食糧問題とエネルギー問題、水資源問題、環境と食糧問題、GMO、貯蔵技術、等への関心が示され、これらのテーマも視野に入れてバイオ分野の産学連携を推進したい、と考えております。まず、「食の安全」をテーマに研究会が検討されています。

### 大学は国際的な中長期的関与を



生源寺眞一農学部長

冒頭挨拶で生源寺眞一農学生命科学研究科長・農学部長は、途上国の食糧保障のための国際援助が国際社会の安全、先進国での食糧安全保障の負担軽減につながることから、大学として技術移転、食糧供給増強のための人づくりに中長期的に関与する必要があることを強調しました。

当日のフォーラムは、食糧生産に関して学内での多岐に渡った最新の研究成果が報告されたほか、柴田明夫丸紅㈱経済研究所所長からは、資源価格の高騰に対応した新しい社会システムの構築の必要性が説かれました。

## 産学連携「シーズ実用化提案会」開催 ～バイオ・医薬品は初のテーマ～

11月25日（火）、東京大学の研究者の研究成果を実用化することを目指す提案会である産学連携「シーズ実用化提案会」が産学連携プラザ2階で行われました。テーマは「簡便、迅速かつ高感度なマラリア感染診断法の開発」（増田建 総合文化研究科広域科学専攻准教授）、「新概念による新機能蛋白質の創成と創薬への応用」（若杉桂輔 同准教授）。医薬品をテーマにしたシーズ実用化提案会は今回が初めてでしたが、産学連携本部では今後も医学・薬学部以外の学部で創薬につながると見込まれる研究を提案していくとともに、医薬品、食品関連企業に対し協議会会員への加入を呼びかけていく予定です。分野を問わず、研究者の成果を具体的に産学連携で社会で使われるようにしたいというご関心のある方は、下記までご連絡ください。

DUCR

検索



### INTERVIEW

IRT研究機構  
機構長 下山 勲 教授  
(情報理工学系研究科長)

「ホームアシスタントロボット」、「キッチンロボット」…最近このような言葉を新聞記事等で目にした読者も多いのではないかと思います。これらの研究成果を積極的に出しているのが、昨年3月に総長室に設置されたIRT研究機構です。IRTが、IT(情報技術)とRT(ロボット技術)を融合した言葉と知れば、その研究内容も自ずとイメージできるでしょう。少子高齢化が進む日本の未来に向けて、明るい夢のある話が聞けるのではと期待して、機構長の下山教授を訪ねました。

#### Q. 複数の企業と連携されていますね？

下山 ロボットの研究自体は、我々の先輩の世代も含め、1960年代から取り組んでいました。しかし、ただ研究をするだけでなく、その研究成果を社会に還元していかなければならないという思いがずっと私にはありました。それを具体化する思いで、科学技術振興調整費「先端融合領域イノベーション創出拠点形成」に申請することになり、その時に異なる強みのある7社に声をかけて、現在の体制を作りました。



企業には、現在研究している分野を将来的に社業にするという考えがあります。我々にとっては、研究成果が企業を通して社会に還元されていくということがなにより重要だと思っています。双方の考えはそれぞれにあり、また知財の問題など解決しなければいけない課題も多々ありますが、実現させたい社会の姿を共有し、実際の研究を進める際には双方がテーマを出し合い議論を深めることで、うまく協働が進んでいます。

#### Q. ロボットの開発からプロトタイプの実験までの過程は？

下山 少子高齢社会は、日本が必ず直面する問題ですが、その時に、ロボットで支援できる領域はたくさんあると思います。例えば、少子高齢社会になると、まず人口が減り、高齢者の割合が増え、一家の家族構成が変わります。このような状況になったときに、従来通りの家族による支援・介護が必ずしも期待できなくなります。こうした課題の解決に、我々の研究が貢献でき、プロトタイプ(試作品)まで作れる分野は何だろうか？その一つがホームアシスタントロボットでした。開発にあたっては、まず様々な家庭内の仕事のレベルに合わせて必要とされる支援を細かくリスト化していき、また、リハビリテーションセンターなどでの現地調査も行ないました。全ての要望に応じて開発されたロボットでも、実際の現場での使用にマッチしない場合があります。社会実証実験、つまり開発したものを実際に使用してもらい、必要な機能を見極めてブラッシュアップしていくことが欠かせません。

#### Q. ロボットに対する一般の方の反応は？

下山 先日、ホームカミングデーでロボットの一般公開をしたところ、様々な反応をいただきました。例えば、小さなお子さんを持つ働く女性だと、食器の後片づけをするロボットに興味を示されていました。一方、比較のお歳を召した方だと、パーソナルモビリティ(移動型ロボット)に人気が集まりました。世代・生活様式・健康状態等によ

### 総長室総括委員会とは？

総長室の下に設置された、室、本部、機構といった組織をまとめる、本部における教授会のような役割を担っています。

総長室総括委員会HP: <http://cirp.u-tokyo.ac.jp>

ってニーズが異なるということを感じ、大変興味深かったです。我々は、マーケティングは得意ではありません。研究者ができるのは、基礎研究に基づいて、多岐にわたる場面で活用できる技術にまで仕上げることです。その後は、各企業に任せて社会のニーズに合わせて製品化をしていただくのです。そのような意味で、改めて産学連携の重要性も感じました。

#### Q. 人材育成も目的の1つに挙げられていますか？

下山 若手の人材育成には、力を入れています。現在IRT研究機構には19人の特任助教がいて、フルタイムでIRT研究に力を注いでいます。この若手の研究者たちが、IRTのプロジェクトを通じて育ち、将来、企業に入ったり、大学の教員になったり、あるいは自分で会社を立ち上げたりして、IRTの分野をさまざまな立場から盛り上げていくことを期待しています。また、博士課程の学生に向けて、「IRTスペシャリストプログラム」を実施しています。IRT研究で必要とされる、高度で実践的な技術と社会的視点を備えた研究者を育成するため、機構及び外部の講師により、理系だけでなく心理学・社会学など文系にまたがった講義や、IRT関連企業へのインターンシップなどを行っています。

#### Q. IRT技術と共に実現させたい社会の姿は？

下山 鉄腕アトムの影響なのか文化的背景があるのか、よく分かりませんが、日本は比較的ロボットに対して抵抗の少ない国だといわれ、産業の効率化という面で特にロボットの導入が進んでいます。一方、世界には、工場の機械化によって人間の労働の場が奪われると考える人たちもいます。

IRTは、日本が世界の中でイニシアティブを取れる分野です。今後50年で、日本の人口は間違いなく減少します。その状況の中で、現在の生活水準を下げることなく生活していく、あるいは向上していくために、機械で置き換えることができる部分は機械を活用していかざるを得ないでしょう。それは、「ロボットと一緒に暮らしていく」ということではありません。このように言うと語弊があるかもしれませんが、ロボットは人格ではなく、他の機械より少し賢い、動き回れる機械です。家庭でロボットを使うということは、例えば工場の機械化により、いろいろな仕事で効率上がるのと変わりありません。当然、ロボットの導入によってどのような社会になるか、という議論は必要ですから、我々も学内外で様々な分野の人と議論をして進めています。その結果、導き出した社会の姿を目指し、またそれを維持していくために、効率化すべき部分にロボットを導入していくことが重要だと考えています。



IRT研究機構の役割は、ホームアシスタントロボットやパーソナルモビリティのプロトタイプを作り出し、新しい社会像を提示することだと思っています。そして、少子高齢社会で貢献したといわれるような成果を挙げていくのが、今後の目標です。(インタビュー: 手塚・野村)

#### ● 関連ホームページ ●

IRT研究機構HP <http://www.irt.i.u-tokyo.ac.jp/>

問い合わせ先: 本部研究機構等支援グループ (内線20484)





# ケータイからみた東大 ～東大ナビ通信～ No.14



## 今どきケータイ事情！

### 携帯電話で道案内！

9月より始まりました「今どきケータイ事情」！めまぐるしく変わる昨今の携帯事情を隔月でお伝えします。ケータイ最新情報や教育分野における活用情報など幅広く扱います。今回は、携帯電話に搭載されたGPS(Global Positioning System:全地球測位システムの略)機能の活用についてご紹介します。

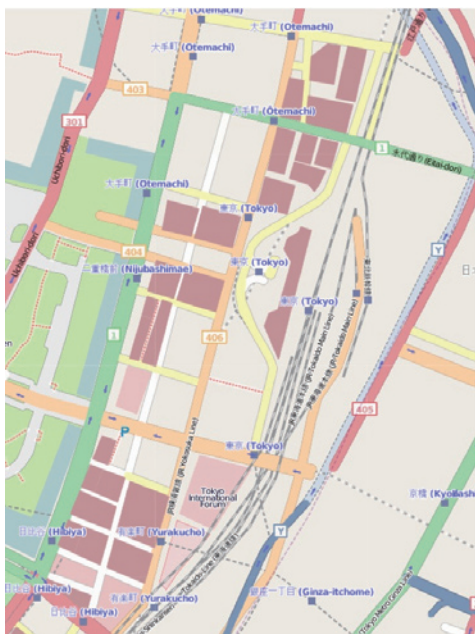
携帯電話には近年、様々な機能が搭載されるようになりましたが、その一つにGPS機能があります。GPSは人工衛星を利用して、自分が地球上のどこにいるのかを正確に割り出すシステムです。これにより、いつも持ち歩いている携帯電話で手軽に、今の居場所を正確に知ることができます。また携帯電話の通信機能と組み合わせることで、地図を使った道案内や周辺の最新情報の取得なども可能です。

2007年の調査によれば(※) GPS携帯電話の保有率は33.4%で、そのうち何らかの形でGPS機能を利用しているユーザーは56.3%いるそうです。以前は携帯電話キャリアからGPS機能を使ったサービスが提供されていましたが(auの「EZナビウォーク」など)、最近ではPC業界ではおなじみのGoogleが提供しているGoogle Map、周辺情報提供サービスを提供するNAVITIMEなど、これまでPCが中心だった地図サービスも続々と携帯電話にも対応し始めています。

また最近では、子どもの持っている携帯電話にGPS機能を付けて位置情報を得て、防犯に役立てるサービスも登場しています。一部の学校やPTAでは、このようなサービスを積極的に使うように指示する動きも進んでいるようです。このほか、携帯電話のネットワークと車のカーナビなどを

連携させて、最新の交通・周辺情報も入手可能な「カーテレマティクスサービス」と呼ばれるサービスも広がり始めています。

このように様々な可能性を秘めた携帯電話のGPS機能ですが、一つ気をつけたいのは通信代金です。サービスによっては大量の地図データをダウンロードしますので、利用パケット数が膨大になることもあります。ご加入の料金プランをよく確認し、是非お試しください！



デジタル地図の例(OpenStreetmap: 東京駅近辺)

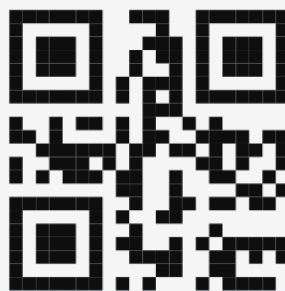
※楽天リサーチと三菱総合研究所(MRI)による調査結果:  
<http://research.rakuten.co.jp/report/20070611/>



## 東大ナビとは？

学内外に向け携帯電話を通じて教育イベント情報をお届けするサービスです。携帯サイトで学術俯瞰講義や公開講座、学内で開催される教育イベント情報を宣伝します。

加えて、QRコードや空メール送信によりメールアドレスを登録した皆様の携帯電話に、最新の教育イベント情報を、メールマガジンで定期的にお届けします。学内教育イベントの情報収集・広報活動の媒体としてご利用いただけます。是非、東大ナビをご活用ください！



# 東大ナビ はじまる

ケータイでお得なイベント情報をGET!

詳しくは [utnav.jp](http://utnav.jp) にアクセス。  
または [mail@utnav.jp](mailto:mail@utnav.jp) に空メール!

東京大学 教育企画室



## イベント情報を受けたい方

mail@utnav.jpに空メール送信！

- この記事のQRコードから
  - mail@utnav.jp宛てにメール送信
  - 携帯サイトutnav.jpにアクセスしてメルマガ登録ページへ
- ※携帯電話・PCどちらからも登録可能



返信メールから登録画面に入力！

- ご所属
- 性別・年齢など



登録完了！

- 登録確認メールが届きます
- 隔週でメルマガ・お得なクーポンGET!



## イベントを宣伝したい方

携帯・PCサイトで申し込みます

- <http://utnav.jp>にアクセス
- イベント掲載フォームから送信！
- 追ってスタッフよりご連絡致します教育企画室TREEオフィスまで！
- 内線；27823(重田)
- メール；[info@tree.ep.u-tokyo.ac.jp](mailto:info@tree.ep.u-tokyo.ac.jp)
- オフィス；本郷キャンパス 第二本部長401号室

## コミュニケーションセンターだより No.55

## ■今年も附属演習林からもみの木を頂きました!!

12月は師走というだけあり、コミュニケーションセンターも大変賑わい、大忙しとなりました。

お歳暮の季節ということもあり、御酒がとても人気でした。「包装しても包装しても間に合いません!!」とスタッフから満面の笑顔で嬉しい悲鳴があげられました。

さて、今年も農学生命科学研究科附属演習林のもみの木をいただき、店内にクリスマスツリーを飾りました。

ブルーを基調にしたツリーで、スタッフはもちろんのこと、お客様にも大変喜んでいただけました。店内のBGMもクリスマスソングにし、本当に楽しいクリスマスを迎えることが出来ました。来年もツリーを飾る予定ですので、今年見られなかった方は是非来年、見にいらして下さい!!



店内入り口に飾りつけたクリスマスツリーとプレゼントボックス

## ■UTCCスタッフおすすめ商品のご紹介!!



工学部機械工学科 4年  
松木 孝憲

(担当：コミュニケーションセンター 山下)

はじめまして。UTCCスタッフの松木です。今回僕がお勧めする商品は、「東大サプリメント」の「体力式アミノ酸」です。100年以上にわたり東京大学で行われてきたアミノ酸研究の成果を商品化しました。日頃の疲れが抜けにくい、仕事が忙しい、運動をするetc...代謝UP、集中力UPにお勧めです。僕はよく運動後に飲むのですが、疲れが残りにくく、翌日も元気に活動できます。

UTCCではアミノ酸以外にも多くの研究成果商品を取り扱っております。是非一度ご来店下さい!!



The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター  
The University of Tokyo  
Communication Center

OPEN：月曜～土曜 10：30～18：30  
電話：03-5841-1039  
http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp

## ワタシのオシゴト / 第35回

Rings around the UT

大学院医学系研究科・医学部 事務部 人事係

川名由希子さん

ニュートリプロテオミクスと  
早口で3回唱えてみる。

私は平成17年に他機関へ出向となり、20年7月に東京大学に戻ってきました。ようやく5ヶ月、そしてあっという間の5ヶ月でした。医学部はちょうど150周年という節目の年だったようで、色々行事があったようですが、私がこちらに異動になる前に大きなものは終了していたらしく、残念でした。現在の業務は主に医学系研究科・医学部の先生方の任免、諸手当関係を主に取り扱っています。医学部は寄付講座が多いようで、今まで担当



デスクにて。。。ちょっとおしとやかに

してなかった事もあり、舌を噛みそうな名称や種類の多さにアワアワしています(笑)。人事は『人の事』を扱う仕事、という点ではどこに行っても変わりませんが、一度外の機関に出向したことにより、中から見ていた東京大学と外から見た東京大学の違いを感じ、ちょっと新鮮な気持ちになっています。まだまだ知識が浅く、勉強の足りない事ばかりで周りの方に助けられてばかりですが、日々精進を重ね、早く戦力になりたいです。



人事係の仲間たちと医学部本館前のスパイラルベンチで記念撮影

得意ワザ：早口言葉 (ある意味必殺技)

自分の性格：江戸っ子なサザエさん(笑)

次回執筆者のご指名：山口武士さん

次回執筆者との関係：病院時代のむちゃくちゃ頼れる1年後輩です!

次回執筆者の紹介：やわらかい口調と意外と鋭い突っ込みは天然なのか計算なのか読めないけれど後輩とは思えない頼りがいですよ!



## 教育学部附属中等教育学校で 武藤芳照教授の特別授業が行われる

12月2日（火）教育学部附属中等教育学校の大教室で、大学院教育学研究科・教育学部、武藤芳照教授の特別授業が行われた。「からだを育む」と題して、人の体の特徴に基づくバリアフリーの重要性や正しいトレーニング方法などの具体的な例を示しながら授業が展開された。

バリアフリーの重要性に関しては、自動改札機を例にあげて説明があった。自動改札機は右利きの人用であり、左利きの人にとっては通りにくい。しかし、左利きの人には10%いる。自動改札機にさらなる工夫が必要であるということであった。

また、人の体の構造を知ることで、高齢者への対応も変化する。高齢者は高音域が聞き取りにくい傾向にある。そのため、高齢者と話をするときには、ゆっくり話すこととともに、トーンを落として話すこと聞き取りやすいとのことであった。

このように、からだの作りや年齢に伴うからだの変化を意識することの大切さについて、いくつかの具体例をあげて話されたあとでトレーニング方法の話になった。

筋力トレーニングを行う際にその方法を誤ると効果が上がらないばかりでなく、身体を痛めることにもつながる。特に成長に伴うからだの変化をよく理解し、適切なトレーニングをすることが重要だと話された。軟骨が多い第二次性徴までのトレーニングには注意が必要で、誤ったトレーニングは軟骨を痛める可能性があるということであった。本校には、中学生と高校生が一緒に活動する部もあるため大いに参考になった。

この特別授業を生徒、保護者、教職員が熱心に聴講した。特に、からだを題目として掲げられていたこともあり、運動部の生徒が多く、授業後にはトレーニング方法など、普段疑問に感じていることなど質問が多く出たが、丁寧な回答に生徒も満足をしたようであった。



特別授業の様子

## 教育学部附属中等教育学校で 中釜洋子教授の特別授業が行われる

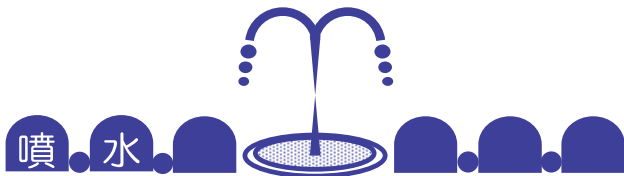
12月4日（木）教育学部附属中等教育学校の大教室において、大学院教育学研究科・教育学部、中釜洋子教授の特別授業が行われた。タイトルは、「こころを育む～自分らしさをどのように作りあげてゆくか」。生徒、保護者、教師を合わせ約100名がこの授業に参加した。先生は、教育学研究科の臨床心理学コースの教授で、家族心理学、家族療法の研究と臨床実践に携わられている。授業は、学問的な詳しい知識とご自身のご経験を豊富に含んだ内容となり、大教室は教養溢れる市民講座さながらの風景だった。先生は、臨床心理学の内容をエピソードを交え、分かりやすく説明してくださいました。

この日、中釜先生が話された内容は、自分に対する感情や価値観を大切にすること、自分という存在は、他者や周囲の環境とともにあることであった。最初の「感じるこころ（感情）を育てるか」では、乳児の頃より応答的環境の中で分化した感情は、不安な感情を抱きたくないばかりに感情を鈍らせる危険があることを述べられた。子どもの不安な感情を母親は必ずしも正しく読み取るとは限らず、こうした子どもの経験はその後親友や教師、カウンセラーなどによって補われている。こうした他者に正しく理解されなかった場合も、他者との関係を肯定的に振り返ることができるようになった場合、失望からの回復が起きるといふ。後半の「取り巻く人間関係の中でこころが育つ」では、私たちは周囲からのストレスを受ける一方、他方では良い影響を受けていること、社会の中で私たちはどのように生きていこうかについて、説明をいただいた。

この日の特別授業は、1年生から6年生を対象とした授業で、これに保護者と教師を加えれば幅広い年齢の受講者が参加している。生徒たちは、中釜先生の表情を追い、またパワーポイントを凝視しながら熱心に聴き、しっかりとメモをとっていた。子ども時代を生き、子どもを持つおとなになった保護者や教師にとっても、良い学びの機会となった。人とともに生きる知恵を、先生から教えていただくことができた。



特別授業の様子



## 教育学部附属中等教育学校が 第3回高校生「観光」エッセイコンクール で金賞受賞

2008年度第3回高校生「観光」エッセイコンクール（主催：産経新聞社・大阪観光大学）で本校5年生の今野愛さんが金賞を受賞した。

このコンクールでは、郷土や海外について考えてもらうことを目的に、「観光」に関するエッセイを全国の高校生が応募した。テーマは、「旅への想い、記憶の中の風景」であった。

今野さんは、「同じ時間の上で」というタイトルで、2007年の夏休みに家族でモルディブへ行ったときのことをエッセイにした。

「真っ青な海に浮かぶ小舟で漁をしているおじいちゃんに会い、道ですれ違った女の子にあいさつして、海岸に面するカフェでゆっくりと時間を過ごしている人を見て、日本とは違う時間の流れというものを強く感じた。悩んだり、つらいこともある私たちだが、世界は広いことを伝えたかった。そして、普段の自分とは違う時間の流れを知ることは、『旅をする』ことでしか得られない」といった内容のエッセイであった。

「金賞受賞は、幸運でラッキーであった。自分が書いたものが、社会的な場で認められたことは自信につながる」と感想を述べてくれた。今後の今野さんの活躍に期待したい。

## 平成20年度 学内広報 発行スケジュール

号数	原稿〆切	発行日	配布
1383	1月 29日(木)	2月 16日(月)	2月 20日(金)
1384	2月 25日(水)	3月 13日(金)	3月 19日(木)

2009年度の発行スケジュールは  
2月号誌上にて告知いたします。

学内広報にご寄稿の際は、以下のURLにある  
「記事提出要領」をご参照ください。

[http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html)  
【東京大学ホームページ】→【右下の学内広報アイコンをクリック】

問い合わせ先・原稿提出先

本部広報グループ 広報企画チーム  
TEL：03-3811-3393 内線22031  
E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp



= 特集テーマ&執筆部署募集告知 =

## 特集の記事を 執筆してみませんか？

学内広報では巻頭特集の記事テーマとその執筆部署を募集しています。学内への周知を図るためのツールとして特集はとても効果的です。皆さんの部署でも、ぜひ特集の記事を執筆してみませんか？

### 1. 制作方法

#### ① テーマの選定

全学の教職員を読者対象とするテーマを選定することとしています。まずは、本部広報グループに気軽にご相談ください。特集に馴染まないテーマでない限り、対応します。

(締切日の3週間前位までに一度ご相談ください)

#### ② 内容・構成の決定

テーマが決まったら執筆部署と学内広報編集スタッフ（以下、編集スタッフ）が打ち合わせをしてページの内容を決めていきます。見開き2ページをひとつの単位とします。内容が盛りだくさんの場合は4ページ、または6ページで構成することもあります。

#### ③ 原稿の執筆

決定した構成に合わせて執筆部署に原稿を書いていたいただきます。字数等は編集スタッフが提示します。原稿はWordファイルでご制作下さい。

#### ④ ビジュアル要素の提供

特集に盛り込む写真・図・イラストを執筆部署から提供していただきます。手持ちの写真がない場合は編集スタッフが撮影にうかがいます。

(学外または他部署のホームページ等から写真・図・イラスト等を転用する場合は著作権に十分留意し、必ず先方の許諾を得てからご使用ください)

#### ⑤ デザイン

お書きいただいた原稿、ご提供いただいた写真・図等を素材にして、編集スタッフがページデザインを作ります。もちろん、執筆部署でデザインを作っていたいただいてもかまいません。

#### ⑥ 校正

デザインしたページイメージをお送りしますので、主に文字校正を行なっていただきます。

#### ⑦ 完成

刷り上がった学内広報は、執筆部署に多めに配布します。

### 2. 締切日

あらかじめ、こちらから期日を申しますので、ご協力をお願いします。通常の学内広報〆切日の**数日前**を原稿締切日とします。

### 3. 問い合わせ先・原稿提出先

本部広報グループ 広報企画チーム  
TEL：03-3811-3393 内線22031  
E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

# INFORMATION

## シンポジウム・講演会

### シンポジウム・講演会

サステナビリティ学連携研究機構 (IR3S)

#### 公開シンポジウム「地球温暖化問題:議論から行動へ ～低炭素社会の実現に向けて～」開催のお知らせ

今、世界は実質的な温室効果ガス削減に向けた取り組みを強化しています。地球温暖化については、もはや次世代の問題として議論されるのではなく、現代の課題として行動を起こすことが求められています。

2008年2月に開催したIR3S公開討論会では、ポスト京都議定書を見据えた日本の戦略について、産業界の代表者を招き、議論を行いました。本シンポジウムでは、その後の国際交渉の現状や日本における中期目標策定の動向、そして、企業、NGOなどの取り組みの紹介を通じ、低炭素社会を実現するために、今後、日本がどのように取り組むべきかについて考えます。また、国際社会における日本のリーダーシップの在り方や、各個人、大学、企業、NGOなどの行動についても議論を深めます。

日時：2009年2月7日(土) 13:30～17:00

場所：安田講堂

主催：東京大学 IR3S

協賛：日本経済新聞社(予定)

参加費：無料

申し込み方法：下記ホームページからお申し込みください。受講券メールを先着順にて事務局より発送いたします。なお、定員になり次第締め切らせていただきます。

<http://www.ir3s.u-tokyo.ac.jp>

#### プログラム(敬称略)：

13:30～ 開会挨拶

武内 和彦 東京大学大学院農学生命科学研究科 教授・IR3S副機構長

13:35～ ビデオメッセージ

ラジェンドラ・パチャウリ

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)議長

13:50～ 特別講演

「行動の構造化による低炭素社会の実現」

小宮山 宏 東京大学総長・IR3S機構長

14:20～ 講演1

「気候変動の将来枠組みと低炭素社会への移行について」

松橋 隆治 東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授

14:40～ 講演2

「企業行動から見た日本の気候変動政策の課題」

一方井 誠治 京都大学経済研究所 教授

15:00～ 休憩

15:20～ パネルディスカッション

「日本は低炭素社会をどう実現していくか？」

・パネリスト

一方井 誠治

松橋 隆治

大野 輝之 東京都環境局都市地球環境部 部長

大林 ミカ 駐日英国大使館環境エネルギー部 気候変動プロジェクト政策アドバイザー

小林 喜光 三菱化学株式会社 代表取締役社長

清水 正巳 日本経済新聞社 論説委員

湯原 哲夫 東京大学 IR3S 特任教授

・司会

住 明正 東京大学地球持続戦略研究イニシアティブ(TIGS) 統括ディレクター・教授

17:00 閉会

多くの方のご来場をお待ちしています。

問い合わせ先：本部研究機構等支援グループ

内線：20484

メール：kikoushien@ml.adm.u-tokyo.ac.jp



シンポジウムポスター



昨年のシンポジウムの様子

## 募集

### 募集

本部学生支援グループ

### 平成20年度第2回「東京大学総長賞」の募集について

本学の学生を対象として、学業、課外活動、各種社会活動、大学間の国際交流等の各分野において、「優れた評価を受けた」「優秀な成績を修めた」「本学の名誉を高めた」などの顕著な功績のあった個人又は団体に、総長が表彰を行う「東京大学総長賞」が平成14年度から設けられています。

この表彰は、「東京大学学生表彰選考委員会」（以下「選考委員会」という。）が選考にあたり、総長が表彰するものです。選考委員会では、推薦された候補者の中から

その内容を審査のうえ、「東京大学総長賞」として相応しいものが決定されます。

**第2回（春）は学業を対象**に募集し、**推薦者は各学部長及び各研究科長・教育部の長のみ**となります。また、第2回（春）には年間の授与者の中から特に優秀な者に対し、総長大賞が授与される予定です。

### 記

1. 申請書類：別紙様式1（個人）又は別紙様式2（団体）に必要な事項を記入し、参考資料等を添付してください。なお、選考時の参考とするので、推薦理由欄には推薦にあたって留意された点（所見等）や選考経過等についても併せて記入し、参考書類（写も可）を添付してください。また、専門分野に関わらず、誰にでも理解しやすい表現にて記述願います。

2. 推薦基準：以下のとおりです。

3. 提出期限：平成21年3月6日（金）正午迄（必着）

4. 選考結果：3月中旬に推薦者及び受賞者へご連絡します。

5. 授与式：平成21年3月23日（月）17時より小柴ホール（理学部1号館）にて実施を予定しています。

### 【本件に関する問い合わせ】

本部学生支援グループ学生生活チーム

担当：宮内（内線：22514）

E-mail：gakuseiseikatsu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

平成18年6月28日  
学生表彰選考委員会

### 東京大学学生表彰「東京大学総長賞」推薦基準

東京大学学生表彰実施要綱（平成14年3月19日総長裁定、平成18年6月28日改正）第3に基づき、推薦の基準を以下のとおりとする。

(1)学業において、研鑽に励み、他の学生の範となった個人若しくは団体、又は学界等により優れた評価を受け、本学の名誉を高めた個人若しくは団体

(2)課外活動において、国内外の各種スポーツ、競技、演奏、展示、発表等で優秀な成績を収め、本学の名誉を高めた個人若しくは団体、又は課外活動を支援し、課外活動の充実と振興に著しい貢献をした個人若しくは団体

(3)環境保全、災害救援、社会福祉、青少年育成、海外援助協力等の各種社会活動において、活動実績が認められ、他の学生の範となった個人若しくは団体、又は社会的に優れた評価を受け、本学の名誉を高めた個人若しくは団体

(4)大学間の国際交流において、相互理解と友好関係を深め、本学の国際交流の発展に著しい貢献をした個人又は団体

(5)その他、これらに準ずるもので、「東京大学総長賞」に相応しい貢献があった個人又は団体

上記基準による推薦者については、自薦又は他薦とする。ただし、基準(1)の推薦者は、学部学生については学部長、大学院学生については研究科長・教育部の部長に限る。

なお、年2回の授与のうち、第1回目(秋)の推薦は上記基準の(2)~(5)を、第2回目(春)の推薦は基準の(1)をそれぞれ対象とする。

また、在学中の学業、課外活動、社会活動等の評価、活動実績等が上記基準に該当する者は、卒業又は修了後1年以内に限り選考の対象とする。



**お知らせ**

**退職教員の最終講義**

学内広報では、今年度末をもって本学を退職される方々の最終講義のお知らせを掲載します。

#### 大学院工学系研究科・工学部

##### 岡部 篤行 教授

(都市工学専攻)

日時：2月20日(金) 16:30~18:00

会場：山上会館

演題：「明日の空間分析：より広く、より高く」

##### 平尾 公彦 教授

(応用化学専攻)

日時：3月6日(金) 15:00~17:00

会場：工学部5号館51講義室

演題：「理論化学40年-すばらしい人々との出会い-」

#### 大学院理学系研究科・理学部

##### 岩澤 康裕 教授

(化学専攻)

日時：3月19日(木) 14:00~16:00

会場：理学部化学本館5階 講堂

演題：「表面の触媒科学に魅せられた25年」

#### 大学院農学生命科学研究科・農学部

##### 米山 忠克 教授

(応用生命化学専攻)

日時：3月6日(金) 14:00~16:00

会場：農学部2号館化学第一講義室

演題：「植物における栄養のしくみ：栄養素の代謝とシグナル機能、エンドファイトック窒素固定、篩管・導管によるメタルの移行」

#### 大学院総合文化研究科・教養学部

##### 鹿兒島 誠一 教授

(広域科学専攻相関基礎科学系基礎科学相関自然部会)

日時：2月20日(金) 17:00~18:00

会場：アドミニストレーション棟3階学際交流ホール

演題：「有機導体の物性1973~2008」

#### 大学院情報学環

##### 原島 博 教授

(大学院情報理工学系研究科・工学部 兼)

日時：3月2日(月) 16:00~18:00

会場：工学部2号館1階213号講義室

演題：「メディアルネッサンスの時代を生きる」

#### 物性研究所

##### 石本 英彦 教授

(極限環境物性研究部門)

日時：3月16日(月) 13:30~15:25

会場：物性研究所本館6階大講義室(柏キャンパス)

演題：「低温と共に40年」

##### 黒田 寛人 准教授

(先端分光研究部門)

日時：3月16日(月) 15:45~17:40

会場：物性研究所本館6階大講義室(柏キャンパス)

演題：「コヒーレント軟X線レーザー、高次高調波と高出力レーザー物性の研究」

## お知らせ

大学院新領域創成科学研究科

### 柏キャンパス・オンデマンド交通実験運行をご利用下さい！

新領域創成科学研究科・設計工学研究室では、お年寄り、小さなお子さん連れのお母さん、外国の方などを含めたあらゆる対象の方に便利で効率的な地域交通を目指して、新しいオンデマンド交通システムを研究・開発し、東大柏キャンパス周辺地域で実証実験を行っています。

オンデマンド交通とは、予約をして乗り合いにより運行する新しい交通手段です。路線バスのように経路や時刻表はあらかじめ決めずに、利用者の希望乗降地・時刻によって成立した経路に沿って運行します。

現在、2008年10月から2009年3月末までの予定で、無料で乗車できる実証実験を実施中です。つくばエクスプレス線・柏の葉キャンパス駅～柏キャンパスへの移動も可能で、初回登録および乗車予約をすることで、柏キャンパスへの実際の往復に利用いただけます。朝・夕は、予約なしで乗れ、東大構内に乗り入れるシャトルバスも運行しております（こちらも無料です）。

また、本郷・駒場・白金・中野の各キャンパスから柏キャンパスにお越しの際には、各種交通機関との乗り換え比較とオンデマンドバス予約ができる「キャンパス間連携乗り継ぎ案内予約」もぜひご利用下さい。

柏オンデマンド交通実証実験のページ

<http://www.nakl.t.u-tokyo.ac.jp/odb/ex.html>

東大直行シャトルバス

<http://www.nakl.t.u-tokyo.ac.jp/odb/shuttle.html>

キャンパス間連携乗り継ぎ案内予約

<http://www.casv.jp/cs/rs.aspx>

ご案内・初回登録・乗車予約の電話受付

04-7136-4628（内線 64628 平日 8：30～18：00）

携帯予約サイト（QRコード）



オンデマンド交通（タクシー車両）



オンデマンド交通（バス車両）

## お知らせ

本部学生支援グループ

### 留学生や外国人研究員とその家族対象の医療情報サービスウェブページがオープン

2007年度の学生企画コンテストで優秀賞を受けた「留学生のための受診支援システム」企画が日本での受診の仕方や、医療機関の探し方などの情報を掲載した留学生・外国人研究員向けのウェブページをオープンしました。日本語、英語、中国語で閲覧可能です。受診にまつわる文化の違いや、相談等に応じる掲示板ページも開設しています。医療情報だけでなく日本の健康保険、妊婦・子どもの健康・福祉サービスなどに関する幅広い情報も手に入ります。

ウェブアドレス：<http://www.FINDADOCTORNOW.jp>

## お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

### 駒場キャンパス池の名称の決定について

現在、周辺環境の整備を進めています、駒場キャンパスの東端部に位置する池の名称を『駒場池（こまばいけ）』とし、愛称を「一二郎池（いちにろういけ）」とすることを決定いたしました。たくさんのご応募をいただき誠にありがとうございました。



この『駒場池』（愛称「一二郎池」）が、皆様にとって親しみのある憩いの場となるよう、今後も池周辺の環境整備に取り組んでまいります。

#### 1. 応募件数

池の整備開始と併せて、池をより広く親しまれるものとするため、2008年5月30日（金）から7月31日（木）までの間、本学の学生、教職員及び卒業生の皆様に名称を募集したところ、応募件数は70件に上りました。

内訳は、学生50件、教職員13件、卒業生7件となり、内容は、「一二郎池」、「一二浪池」、「宙池」、「駒場池」及びその他が各1件の応募がありました。

#### 2. 審査経過

大学院総合文化研究科・教養学部及び大学院数理学研究科の関係教職員により組織された審査委員会が2008年12月3日（水）に開催され、応募作品の中から慎重に審議された結果、正式名称と愛称が決定されました。

#### 3. 名称の由来

『駒場池』について

駒場キャンパスに学ぶ者あるいはかつて学んだ者にとって、「駒場池」の名前がいつまでも心の中に残るようなとの願いが込められています。

「一二郎池」について

本郷キャンパスの『育徳園心字池』（愛称「三四郎池」）と対比されて、古くから学生に親しまれてきた名称を愛称とすることにしました。

#### 4. その他

入選作品の応募者が複数であるため、抽選により受賞者を決定し、記念品を贈呈いたします。

### お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

**「教養学部報」第517（1月7日）号の発行**  
——教員による、学生のための学内新聞——

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、15号館ロビー、図書館ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

第517号の内容は以下のとおりとなっていますので、ぜひご覧ください。

磯崎行雄：科学論争としての「地球温暖化」問題  
加藤恒昭：総合文化研究科・教養学部 第三期運営  
諮問委員会 第一回会議報告  
若本祐一：複雑系生命システム研究センターの船出

竹野太三：クルーグマン教授のスウェーデン銀行賞  
（ノーベル経済学賞）受賞に寄せて  
——国際貿易論について

森山工：世俗化する宗教  
——地域文化研究専攻主催シンポジウム

大貫隆：〈駒場をあとに〉ピンクルームと緑茶

本村凌二：先輩・大貫隆先生をおくる

杉橋陽一：〈駒場をあとに〉定年を迎えて

浦雅春：宗匠と呼ばれて

杉橋陽一先生を送る言葉

友田修司：〈駒場をあとに〉ありがとう駒場

「教養としての化学」を模索した30年

金野大助：友田修司先生をおくる

廣松毅：〈駒場をあとに〉駒場に育てられて

佐藤俊樹：廣松毅先生をおくる言葉

鈴木賢次郎：〈駒場をあとに〉図（形科）学は今

設計製図の基礎教育からグラフィックス・リテラシー教育へ

加藤道夫：鈴木賢次郎先生を送る

岡秀夫：〈駒場をあとに〉駒場を去るにあたって

ポール・ロシター：A Farewell Message for Professor  
Hideo Oka

里見大作：〈駒場をあとに〉駒場くん、ありがとう

石浦章一：里見大作先生を送る

石原孝二：〈時に沿って〉ハイデガーと脳科学技術  
とリスク論

安武裕輔：〈時に沿って〉駒場にて

井上彰：〈時に沿って〉駒場の月見草

### お知らせ

本部学生支援グループ

**アウトリーチサイトのパートナー募集！**

2008年11月に行われた「学生企画コンテスト（東京大学創立130周年記念事業）」にて優秀賞を獲得し、今年度企画を実施している「東京大学アウトリーチイニシアティブ（略称UtoI）」は、高校生など学外の方々に対して行っている体験授業や出張授業などのアウトリーチイベントを紹介するポータルサイト（[www.utoi.jp](http://www.utoi.jp)）をオープンしました。既に様々な部局からのイベント情報等が載っておりますが、より学内の方々に幅広く使っていただくため、このサイト上でイベント紹介などを行うパートナー団体をさらに募集しています。東京大学の教職員を含む（推薦者でも構わない）団体、個人であれば、自分たちの紹介ページとともにイベントやニュースの告知が可能となります。関連する方々はぜひご検討ください。



UtoI ウェブサイトのトップページ (www.utoi.jp/index.php)



UtoI ウェブサイトのイベント検索ページ (www.utoi.jp/event/index.php)

## お知らせ

### 情報基盤センター

#### “情報探索ガイダンス” 各種コース実施のお知らせ

レポート・論文の執筆や、ゼミ発表の準備の際、どのようにして必要な文献を入手していますか？文献探しで困ったことはありませんか？

情報基盤センター図書館電子化部門では、“情報探索ガイダンス” 各種コースを実施しています。

本学にご所属であれば、学生・教職員を問わず、どなたでも参加できます。ぜひご参加ください。

#### ●会場：

本郷キャンパス 総合図書館1階 講習会コーナー  
(先着12名。予約不要。直接ご来場ください。)

#### ●日程・コース概要：

■ 2月3日(火) 15:00～16:30

■ 2月27日(金) 15:00～16:30 (2月3日と同内容)

～ Web で文献の「検索」から「整理」まで～

Web of Science + EndNote Web コース

Web of Science は、全分野の主要学術雑誌に掲載さ

れた論文のデータベースです。通常のキーワード検索に加え、引用文献を手がかりとした検索も可能です。後半は、検索結果を Web 上に保存・整理し論文執筆に利用できる文献管理ツール EndNote Web の利用方法を説明します。

#### ■ 2月12日(木) 15:00～16:00 日本の論文を探すには？

日本国内の雑誌論文、どうやって検索していますか？このコースでは、代表的なデータベース、CiNii(サイニイ)の使い方を中心に解説します。

#### ■ 2月16日(月) 15:00～16:00 文献検索早わかりコース

図書や電子ジャーナル、雑誌論文、新聞記事など、各種の文献検索方法を、まとめてコンパクトに解説します。

#### ■ 2月18日(水) 12:00～13:00 自宅から検索するには？

自宅からも文献検索したいと思いませんか？このコースでは、学内・学外を問わず利用できる無料公開のデータベース・電子ジャーナルや、ECCS アカウントによる認証で学外から利用可能になる SSL-VPN Gateway サービスなどを紹介します。

#### ■ 2月24日(火) 15:00～16:00 電子ジャーナルを利用するには？

電子ジャーナルを使えば、欲しい論文の本文が Web で簡単に見られます。このコースでは、代表的な学術出版社の電子ジャーナルサイトを例にとって実際の利用方法を解説します。また、“UT Article Link” を使ってデータベース検索結果から電子ジャーナルへアクセスする方法も紹介します。

#### ●参加費：無料

#### ●出張講習会、随時受付中です！

授業やゼミなどに、出張します。ご希望の日時、会場、内容、人数、連絡先を、メールで下記までご連絡ください。(無料)

ご希望の内容・レベルに合わせて、講習します。出張講習会については、下記サイトをご参照ください。

(<http://www.dlitc.u-tokyo.ac.jp/gacos/shuccho.html>)

#### ●問い合わせ：

学術情報リテラシー係

03-5841-2649 (内線：22649)

[literacy@lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:literacy@lib.u-tokyo.ac.jp)

<http://www.dlitc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

## お知らせ

大学院農学生命科学研究科・農学部

### 農学生命科学研究科技術職員研修会 開催のお知らせ

第1回農学生命科学研究科技術職員研修会が以下の通り開催されます。

農学生命科学研究科には4つの技術組織があり独自で研修を行ってきましたが、新しい技術組織を検討していることもあり、はじめての試みとして農学生命科学研究科主催で技術職員研修が実施されることになりました。技術発表のほか技術職員組織化についての意見交換も企画されています。当日受付可能ですので、多くの方の参加をお待ちしています。

日時：

3月5日（木）13：00～3月6日（金）12：00

会場：

弥生講堂アネックスセイホクギャラリー

内容：

3月5日（木）

13：00 開会、特別講演「安全について」  
農学部安全衛生管理室 高橋勝彦特任教授

14：10 退職者講演

15：00 技術職員発表

17：30 懇親会

3月6日（金）

9：30 ポスター発表

10：45 技術職員の組織化についての意見交換

受付は3月5日（木）12：00から

お問い合わせ先：

技術基盤センター（内線）27522（中谷）

附属演習林（内線）25492（大村）

## お知らせ

大学院理学系研究科・理学部

### 第62回小石川植物園市民セミナーのご案内

小石川植物園後援会が主催する第62回小石川植物園市民セミナーが下記の通り開かれます。今回は、植物園育成部主任の平井一則氏による、小笠原希少植物の保護増殖に関する講演と温室案内です。小笠原固有の珍しい植物を実際に見学し、絶滅危惧植物保全の最前線を実感できる、絶好の機会です。本学関係者に限らず、どなたでも参加できます。どうぞ皆様お誘い合わせの上、是非ご参加下さいませよう、ご案内申し上げます。

講師：平井一則（理学系研究科附属植物園）

演題：「東大植物園における絶滅危惧植物の保全活動 — 小笠原希少植物保護増殖事業—」

日時：3月7日（土）①13時～14時、②15時～16時の2コースから選択

場所：理学系研究科附属植物園本園（小石川植物園）柴田記念館および研究温室

参加費：無料（但し、一般の方は入園料が必要です）

参加申込方法：2月27日（金）までに、ご希望の時間をご指定の上、往復葉書または電子メールにて後援会までお申し込み下さい。返信葉書ないし返信メールが招待状となります。なお参加ご希望多数の際は、お申し込み順に従い受付が締め切られることがあります。悪しからずご了承下さい。

主催・参加申込先：〒112-0001 文京区白山3-7-1

東京大学大学院理学系研究科附属植物園内

小石川植物園後援会

koishikawa-koenkai@koishikawa.gr.jp

お問い合わせ先：大学院理学系研究科附属植物園

杉山宗隆准教授（03-3814-0368）

荒松雄名誉教授

荒松雄先生は2008年11月8日(土)に亡くなられました。享年87歳。荒先生はわが国で最初にインド史を本格的に研究された人で、デリー諸王朝時代(13～16世紀)のイスラム遺跡の研究をはじめ、南アジアの社会と宗教に関して多くの著書を著されました。東洋文化研究所では所長を務められ、停年退官後は、津田塾大学と恵泉女学園大学で教えられました。



荒先生がインド史の研究をはじめられたのは、戦後の1947年に東洋文化研究所に勤めてからと聞いております。助手論文として、当時の学界で問題となっていたインド共同体論の論文を書かれたあと、インドのバナラス・ヒンドゥー大学に留学されて、デリー諸王朝時代の研究をなされました。ついでデリーでの2年間は、イスラム遺跡を自転車で回って、丹念に調べ写真を撮って、王権と宗教のかかわりというインド史の大問題を考えられました。帰国後、59年に故山本達郎先生と一緒に「インド史跡調査団」を組織されて、デリーを中心としてデリー諸王朝時代の建造物を調査研究されました。荒先生はその後も機会あるごとに遺跡を訪れて補足調査をなされ、ムスリム聖者の聖廟や王朝の墓の斬新な研究、それまで見逃されてきた「壁モスク」などの宗教施設や、バーオリ(井戸に階段が備わっている特異な形の水利建造物)、堰堤、水門の水利施設の画期的な研究を発表され、世界中で高く評価されました。この半世紀の間にデリーの都市開発によって、多くのイスラム建造物がこわされ、また調査が不可能になりましたので、「史跡調査団」が保有する写真、図版、拓本などは貴重な資料となりました。東洋文化研究所ではこれらの資料を保管

し、デジタル化して公開しています(<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/index.html>)。

荒先生は非常な集中力をもって研究に取り組みました。それが遺憾なく発揮されたのは、1977年に学士院賞を受けた『インド史におけるイスラム聖廟——宗教権威と支配権力——』を執筆されたときです。このとき、荒先生は朝早くから夜遅くまで研究室にこもって仕事をされました。往復の電車のなかでも原稿を直したと、よく言っておられました。その文章は明るくわかりやすく、きちんとした文体です。夕方は食事を済ませると、おりおり、赤門前のバーで顔見知りの人々と談笑して気分転換をしていました。楽しみながら研究をしているご様子は、うらやましい限りでした。

荒先生は、ご自身もお書きになったように、幸運に恵まれた方です。学才、文才が豊かで、研究のほかに、5冊も推理小説をお書きになったことはよく知られています。語学も堪能で、フランス語が得意でした。インド中世史研究をはじめられてから、東京外国語大学でペルシア語とウルドゥー語を勉強されました。デリーでは、インド考古局の職員や住民とウルドゥー語を流暢に話して、遺跡調査を円滑に進められました。

晩年、何度か大病をされましたが、持ち前の生命力と奥様の手厚い看護で克服されて、「壁モスク」の調査研究、インド各地のイスラム遺跡の探査記録の大冊の研究書を刊行し、ついでデリー諸王朝時代の論文集と、南アジアの政治、社会、宗教の諸論文をまとめて2冊を刊行されました。驚くべきパワーです。

わたくしどもは荒先生と多くの時間を過ごしたことを、いま改めて幸福に感じています。おそらく、荒先生の授業を受けられた方も、また荒先生の身近に接した方々も、幸せな思い出を抱えていることと思います。

(東洋文化研究所)

## 鶴尾隆名誉教授

鶴尾隆先生は、病氣療養中の処 2008 年 12 月 16 日（火）ご逝去されました。享年 65 歳でした。

先生は、昭和 18 年 7 月 11 日香川県にお生まれになり、同 42 年 3 月本学薬学部を卒業、同 47 年 3 月本学大学院薬学系研究科博士課程を修了され、薬学博士の学位を授与されました。同年 5 月本学薬学部文部技官に採用となり、同 49 年 5 月本学薬学部助手、同年 12 月米国セントルイス大学・分子ウイルス学研究所研究員、昭和 51 年 4 月米国カリフォルニア大学・分子生物学研究所研究員、昭和 52 年 4 月財団法人癌研究会・癌化学療法センター研究員、昭和 58 年 10 月同主任研究員、昭和 61 年 7 月同基礎研究部長を経て、平成元年 5 月本学教授（応用微生物研究所）に就任され、平成 5 年 4 月改組により本学教授（分子細胞生物学研究所）に配置換えとなり、平成 18 年 3 月本学を定年退職されました。この間平成 11 年 4 月から平成 15 年 3 月まで本学分子細胞生物学研究所長を併任され、大学と研究所の管理運営にご尽力されました。本学を定年退職後、平成 18 年 4 月財団法人癌研究会癌化学療法センター所長に就任され、亡くなる直前まで癌研究と後進の指導にあたってこられました。

先生のご研究は、癌化学療法及び癌分子標的治療研究における数多くのパイオニアの研究業績が世界的に有名ですが、特に、抗癌剤多剤耐性を示す癌細胞の細胞膜に P 糖蛋白質が発現し抗癌剤を細胞外に排出するポンプとして機能していること、P 糖蛋白質を阻害することにより多剤耐性を克服できることを世界で初めて証明したこと、さらに抗癌剤耐性克服薬の開発研究に多大な貢献をしたこと、等は国際的に高く評価されています。これらの研究業績によ



り、高松宮妃癌研究基金学術賞、(財) 癌研究会学術賞、日本薬学会賞、日本癌学会吉田富三賞、紫綬褒章等を受賞されました。

先生は、平成 11 年度から平成 16 年度まで、文部科学省科学研究費補助金特定領域研究『癌研究の総合的推進に関する研究』の代表を努められ、日本の癌研究全体の推進に大きな貢献をされました。平成 15 年 7 月に日本学術会議会員に就任され、生物系薬学研究連絡委員会委員長、がん研究専門委員会委員長を務められました。また、日米がん研究協力事業(日本学術振興会) 治療部門コーディネーター、文部科学省学術審議会専門委員、文部科学省科学技術・学術審議会科学技術振興調整費審査委員、厚生労働省中央薬事審議会委員等の公職を歴任され、日本の学術振興に貢献されました。

学会活動におきましては、日本癌学会会長、日本癌転移学会会長、日本癌学会理事、日本薬学会評議員、日本生化学会評議員、癌分子標的治療研究会会長等の要職を歴任され、国際癌化学療法シンポジウム (International Symposium on Cancer Chemotherapy) の代表世話人を長年にわたり務められ、学会の発展に貢献されました。また、日本癌学会学術雑誌 Cancer Science 編集長、米国癌学会 Cancer Research (Associate editor)、Oncology Research (Asian editor)、Cancer Chemotherapy and Pharmacology、Japanese Journal of Clinical Oncology、Biological & Pharmaceutical Bulletin、Journal of Experimental Therapeutics & Oncology、Apoptosis 等、学術雑誌の編集委員を努められ、国際的な学術振興にも多大な貢献をされました。

先生は、周りを暖かく包みこんでしまう包容力のある笑顔と実行力で、癌研究の分野において絶大なリーダーシップを発揮されてきました。先生のにこやかな生前の面影を偲びつつ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(分子細胞生物学研究所)

	氏名	異動内容	旧（現）職等
(退職)			
20.12.31	柴田 大	辞職（京都大学基礎物理学研究所教授）	大学院総合文化研究科准教授
20.12.31	鼎 信次郎	辞職（東京工業大学大学院情報理工学系研究科准教授）	生産技術研究所准教授
(採用)			
21.1.1	山西 健司	大学院情報理工学系研究科教授	
(昇任)			
20.12.16	入江 寛	大学院工学系研究科准教授	大学院工学系研究科講師
20.12.16	井出 哲	大学院理学系研究科准教授	大学院理学系研究科講師
20.12.16	前田 京剛	大学院総合文化研究科教授	大学院総合文化研究科准教授
21.1.1	山末 英典	大学院医学系研究科准教授	医学部講師
21.1.1	榎 学	大学院工学系研究科教授	大学院工学系研究科准教授
21.1.1	和田 元	大学院総合文化研究科教授	大学院総合文化研究科准教授
21.1.1	多賀 巖太郎	大学院教育学研究科教授	大学院教育学研究科准教授
21.1.1	岡部 徹	生産技術研究所附属サステナブル材料国際研究センター教授	生産技術研究所附属サステナブル材料国際研究センター准教授
(兼務命)			
21.1.1	福山 寛	低温センター長	大学院理学系研究科教授

\* 退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。  
 東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。

表紙写真解説

プリオンノックアウト牛

牛は食料としてのみでなく様々な医薬品原料として重要です。牛海綿状脳症（bovine spongiform encephalopathy: BSE）は、プリオン蛋白の異常に起因する感染性の疾病です。BSEに似た羊の脳症（スクレイピー症）に罹った綿羊の異常プリオンを含む肉骨粉を飼料として牛に給与することでスクレイピー症が牛に感染し、BSEを発症すると考えられています。同様にBSEに罹った牛の異常プリオンを人が食べることで、人にも脳症が感染すると考えられています。しかしこのような感染によって発症するのではなく、感染を絶っても孤発的に発症する可能性があることが分かってきました。人への感染を完全に封じ込めるために病因物質プリオンを含まないプリオンノックアウト牛（黒毛和種の雌）を作出し、それが2007年末に誕生しましたので、これを実用化できるかか見極めるために健全性を調べています。なお、アメリカ合衆国では国立動物疾病研究所と麒麟麦酒のグループが約1年間先行して乳牛のホルスタイン種の雄を作出して同様に実用化の可否を調べています。

農学生命科学研究科附属牧場 教授 眞鍋昇



# Contents

特集

02 ー再建 80 周年記念ー 総合図書館大解剖！

NEWS

一般ニュース

- 10 本部人材育成グループ  
東京大学教職員永年勤続者表彰式行われる
- 11 地球観測データ統融合連携研究機構（EDITORIA）  
第3回国家基幹技術「海洋地球観測探査システム」フォーラム開催
- 12 海洋アライアンス  
第2回イブニングセミナー開催

- 13 本部学生支援グループ  
第55回総長杯争奪水上運動会が開催される
- 14 学生相談ネットワーク本部  
三浦雄一郎氏講演会～75歳、エベレスト登頂への挑戦～の開催
- 14 本部業務改善グループ  
2008年度業務改善総長賞表彰式
- 15 本部学生支援グループ  
SiLR（三四郎池のランドスケープ・リノベーション）企画成果報告会が開催されました！

部局ニュース

- 16 大学院新領域創成科学研究科  
新領域創成科学研究科創立10周年記念式典を開催

- 16 生産技術研究所  
「千葉実験所公開」開催される
- 17 大学院教育学研究科・教育学部  
教育学研究科附属心理教育相談室 第3回  
公開講座開催
- 18 大学院人文社会系研究科・文学部  
外国人留学生見学旅行を実施
- 18 大学院教育学研究科・教育学部  
留学生旅行で富士山と陶芸を堪能
- 19 大学院農学生命科学研究科・農学部  
千葉演習林 紅葉の猪ノ川溪谷 特別ガイドを  
実施
- 19 大学院工学系研究科・工学部  
工学系研究科 総合研究機構 光量子科学研究  
センターの発足記念国際シンポジウム・開  
所式が開催される
- 20 附属図書館  
総合図書館再建 80 周年記念式典を挙行
- 21 生物生産工学研究センター  
平成 20 年度生物生産工学研究センターシン  
ポジウム開催される
- 21 大学院農学生命科学研究科・農学部  
動物慰霊祭開催される
- 22 大学院総合文化研究科・教養学部  
三鷹国際学生宿舎で「三鷹市民と三鷹国際  
学生宿舎生との集い」開催される
- 23 東洋文化研究所  
アジア貴重古籍の電子図書館建設と保全事  
業シンポジウムを開催
- 23 空間情報科学研究センター  
CSIS DAYS 2008 を開催
- 24 大学院理学系研究科・理学部  
「東大理学部で考える女子高校生の未来」開  
催される
- 24 医科学研究所  
医科学研究所附属病院でクリスマス・コン  
サート開かれる
- 25 医科学研究所  
第 12 回留学生・外国人研究者のための懇親  
会開催される

### キャンパスニュース

- 26 本部留学生支援グループ  
平成 20 年度外国人学生数一 国費外国人留  
学生数 1,013 人、私費外国人留学生数 1,524  
人、外国政府派遣留学生数 24 人、その他の  
外国人学生（在日外国人学生）数 230 人

### コラム

- 30 Crossroad 産学連携本部だより vol.38
- 32 発掘！総長室総括委員会 第 10 回
- 33 ケータイからみた東大 ～東大ナビ通信～  
No.14
- 34 コミュニケーションセンターだより No.55
- 34 Relay Column 「ワタシのオシゴト」第35回

- 35 噴水 教育学部附属中等教育学校で  
武藤芳照教授の特別授業が行われる
- 35 噴水 教育学部附属中等教育学校で  
中釜洋子教授の特別授業が行われる
- 36 噴水 教育学部附属中等教育学校が  
第 3 回高校生「観光」エッセーコンクール  
で金賞受賞

## INFORMATION

### シンポジウム・講演会

- 37 サステナビリティ学連携研究機構 (IR3S)  
公開シンポジウム「地球温暖化問題：議論  
から行動へ～低炭素社会の実現に向けて  
～」開催のお知らせ

### 募集

- 38 本部学生支援グループ  
平成 20 年度第 2 回「東京大学総長賞」の募  
集について

### お知らせ

- 39 退職教員の最終講義
- 40 大学院新領域創成科学研究科  
柏キャンパス・オンデマンド交通実験運行  
をご利用下さい！
- 40 本部学生支援グループ  
留学生や外国人研究員とその家族対象の医  
療情報サービスウェブページがオープン
- 40 大学院総合文化研究科・教養学部  
駒場キャンパス池の名称の決定について
- 41 大学院総合文化研究科・教養学部  
教養学部報」第 517 (1 月 7 日) 号の発行  
—教員による、学生のための学内新聞—
- 41 本部学生支援グループ  
アウトリーチサイトのパートナー募集！
- 42 情報基盤センター  
“情報探索ガイダンス” 各種コース実施のお  
知らせ
- 43 大学院農学生命科学研究科・農学部  
農学生命科学研究科技術職員研修会開催の  
お知らせ
- 43 大学院理学系研究科・理学部  
第 62 回小石川植物園市民セミナーのご案内

### 訃報

- 44 荒松雄名誉教授
- 45 鶴尾隆名誉教授

### 事務連絡

- 46 人事異動 (教員)

### 淡青評論

- 48 学内保育園歓迎！

## 編集後記

2009 年が始まりました。学内広報の特集づくりをはじめ、様々な仕事であ  
っという間の 1 ヶ月です。さて、今回の学内広報の新年・お楽しみ特集は「綜  
合図書館大解剖！」。図書館には本を借りたり勉強しに行ったりするのみで、  
美術品等を鑑賞することはなかなかなく、改めて総合図書館の歴史や数多  
くのコレクションに圧倒されました。今後も特集で、東大の至宝をたくさ  
んご紹介できたらいいなと思います。1382 号は永久保存版です！！(り)



七徳堂鬼瓦

## 学内保育園歓迎！

本学に男女共同参画室が設置され、各キャンパスに保育園が急ピッチで整備されています。これは大変喜ばしいことであり、関係者の皆様のご尽力に感謝いたします。女性研究者にとって問題なのは、テニユアに向けた時期と出産・子育て期が重なることです。安心して預けられる保育園が職場にできることは、仕事と育児の強力なサポートとなります。しかし、保

育園の不足はまだまだ切実な問題です。今年度、文京区では待機児童が100名を超えているそうです。入園をあきらめて申請していない人がいますので、実際の待機児童はもっと多いはず。東大本郷けやき保育園も定員に達し、入園できない児童が多いと聞いています。実は私も申請したのですが、常時保育が認められず残念に思いました。安心して預けられる保育園のさらなる拡充を望みます。

この記事を書いていて思い出したことがあります。MIT 留学中のある大雪の日、博士論文の副査をしていただいた先生（Ben-Akiva 教授）の部屋に行くと、接客スペースで秘書さんの子供が遊んでいました。大雪で学校が休校になってしまったので連れてきたそうです。先生は全く意に介していない様子で論文指導をして下さいました。このような光景は日本ではあり得ないと思っていましたが、妊娠中にセンター長（柴崎教授）が「河端先生、お子さんが生まれたら研究室に連れてきてもいいですよ」とおっしゃって、驚き、ありがたく思いました。（まだ連れてきたことはありませんが。）理学系研究科には、4月に育児支援室・休養室が開設されたそうですが、こうした部屋があると助かるだろうと思います。最近は育児支援の制度が充実してきて、大学でも女性が働きながら子どもを産んで育てることを受け入れる「雰囲気」ができてきたように感じます。以前はこうした雰囲気は感じられなかったので、大変ありがたいことです。こうした支援に感謝の気持ちを忘れず、自分にできる範囲で仕事も子育てもしっかりすることが大事だと思います。

河端瑞貴（空間情報科学研究センター）

（淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、本部広報グループを通じて行ってください。

No. 1382 2009年1月26日

東京大学広報委員会

〒113-8654

東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学本部広報グループ

TEL：03-3811-3393

e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

http://www.u-tokyo.ac.jp